創立50周年記念誌

愛媛県バドミントン協会

目　　次

ごあいさつ

愛媛県バドミントン協会会長　俊成　薫 …… 1

祝　辞

㈶日本バドミントン協会会長　桜内義雄 …… 3

愛媛県知事　加戸守行 …… 4

㈶愛媛県体育協会会長　大亀孝裕 …… 5

第1章　愛媛県バドミントン協会のあゆみ …… 7

歴代役員 …… 9

県内開催の主な全国大会 …… 10

第2章　各市町村バドミントン協会のあゆみ …… 15

松山市バドミントン協会 …… 15

新居浜市バドミントン協会 …… 18

西条市バドミントン協会 …… 24

今治市バドミントン協会 …… 26

伊予三島市バドミントン協会 …… 27

第3章　各連盟のあゆみ …… 29

愛媛県教職員連盟 …… 29

愛媛県レディースバドミントン連盟 …… 31

愛媛県中体連バドミントン専門部 …… 35

愛媛県小学生バドミントン連盟 …… 37

第4章　寄稿文 …… 39

第5章　栄光のあと …… 55

第6章　愛媛県バドミントン協会 …… 131

愛媛県バドミントン協会組織図 …… 131

愛媛県バドミントン協会規約 …… 132

あとがき …… 148

ご　あ　い　さ　つ

愛媛県バドミントン協会会長
俊　成　　薫

愛媛県バドミントン協会が昭和25年に創立されてから50年という歳月が過ぎました。ここまでご指導いただいた諸先輩の皆様、そして陰日向となり協会を支えてこられた関係各位の熱意とご協力に対し、深く敬意を表し、感謝の意を表する次第であります。

創立当初は、バドミントンに対する世間の認識も低く、競技スポーツとして認知されるまでには多くの時間がかかりましたが、おかげさまで、現在では小学生、中学生、高校生さらには一般社会人、家庭婦人と多くのバドミントン愛好者がふえ、着実に普及・発展をいたしているところであります。

このような中で、ジュニアやシニアにおいては、全国大会での優勝者や入賞者を輩出するなど、幅広い層での活躍が本県バドミントン界の特徴ではないかと思うのであります。今後は、成年層の競技力向上に力を入れ、更なるレベルアップを図りたいと考えております。

また、全国の皆様のご協力をいただいて各種の全国大会を開催させていただきましたが、レベルの高いプレーを間近に観戦させていただくことで、本県の競技力向上と普及が図れましたことに対し、心から感謝申し上げます。

愛媛県バドミントン協会も、50周年という節目を迎え、今まで以上に各種大会の成功と、競技力の向上、さらに組織の強化を図りながら、愛好者の拡大に向け、協会役員一同心を新たにして、鋭意努力をしていく所存でありますので、関係各位におかれましても今まで以上のご支援、ご鞭撻のほどをお願い申し上げる次第であります。

最後になりましたが、記念誌発行にあたって貴重な原稿をお寄せいただいた方々、また編集に携わられた協会関係者及び関係各位に心からお礼申し上げて、ごあいさつといたします。

祝　　辞

祝　　辞

㈶日本バドミントン協会会長
桜　内　義　雄

愛媛県バドミントン協会が創立50周年を迎えられましたことは、日本バドミントン界にとって、大変喜ばしい限りであり、今回記念誌の発刊を見るにいたりましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴会が、半世紀の永きにわたり、バドミントン競技の競技力向上及び普及発展に精進され、今日の成果を挙げられましたことに心から敬意を表します。

貴会は、この50年の歩みの中にあって、積極的に大会誘致に取り組まれ、昨年開催された全日本実業団バドミントン選手権大会をはじめ各種の全国大会を成功なさしめた統率力には、全国から注目が集まっているところであります。

また、日本バドミントン協会の発展は、都道府県バドミントン協会の充実がその礎となっておりますが、幅広い層への普及により、本会の大きな支えとしての役割を果たされた多大の努力と、積極的な熱意に対して、心より感謝申し上げます。

貴会には、この記念すべき50周年を契機として、今後さらに底辺の拡大、組織の充実に努められ、日本バドミントン界のリーダー的存在として、ますます発展されますことを祈念し、お祝いの言葉といたします。

祝　　辞

愛媛県知事
加　戸　守　行

愛媛県バドミントン協会設立50周年記念誌が発刊されますことを、心からお喜び申し上げます。

貴協会におかれましては、戦後まもない昭和25年に設立されまして以来、県内愛好者及び団体の中核として、バドミントンの普及、発展を図られるとともに、心身ともに健康で、活力のある人間形成を目指して、各種大会の開催や、指導者の育成などに力を尽くされております。

更に、ジュニアから社会人までの一貫した指導体制による強化策を展開されるなど、本県スポーツの振興発展に多大の御貢献を賜っております。

ここに、関係者の皆様方の長年にわたる御努力に対しまして、深く敬意を表し、心から感謝を申し上げます。

県におきましては、「スポーツ立県えひめ」の実現を目指して、生涯スポーツの充実や競技スポーツの振興に取り組んでおり、現在、日本有数の規模を誇る新武道館の建設を進めるとともに、平成29年の本県での国体の開催に向けた準備を進めているところです。

どうか皆様方には、これを契機として、更に結束を強められ、本県スポーツの振興に一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

終わりになりましたが、愛媛県バドミントン協会の限りない御発展と、会員の皆様方の御健勝、御活躍を心から祈念申し上げまして、祝辞といたします。

祝　　辞

㈶愛媛県体育協会会長
大　亀　孝　裕

輝かしい歩みを記された愛媛県バドミントン協会が、ここに創設50周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

この間の、社会の変革は著しいものがあります。長く続いた経済成長にもストップがかかり、今日の社会、経済状況はきわめて厳しいものがあります。

そんな中、人々の価値観も変わり、かつては「モーレツ」ぶりが注目されていましたが、今では「健康ブーム」と言われるほど健康に寄せる関心が高まってまいりました。

スポーツは、自らの健康や体力を保持し、増進し、生活を豊かにするものであり、多くの人々に親しまれております。

愛媛県バドミントン協会におかれましても、「幼児から高齢者までが気軽にどこでもいつでも出来ることをモットーに」今日まで発展しつづけていると聞き及んでおります。

特に、競技力向上はジュニアから育成しなければ全国に取り残されると協会関係者から声があがり、小・中・高・大学・一般と一貫指導体制を構築しその成果が出てきているところであります。

愛媛県体育協会では、社会人スポーツ推進協議会を立ち上げて優秀選手・指導者の雇用促進に取り組んでいるところでありますが、共に協力を密にし競技力の向上に役立たせて頂ければ幸いです。

記念誌発刊にあたり、御尽力された関係者に改めて敬意を表し、あわせて愛媛県バドミントン協会の今後ますますの発展を心からお祈りして、お祝いの言葉といたします。

第１章　愛媛県バドミントン協会のあゆみ

第1章　愛媛県バドミントン協会の歩み

1　バドミントンの歴史と愛媛県協会の発足

1820年にインドのボンベイ州にあるプーナという町でプーナゲームとして初めて行われた。

その後、プーナゲームは英国の陸軍士官によって英国に伝えられ、英国でこのゲームが初めて行われたのは1873年頃である。英国ではグロスター州の領主ボーフォート公爵がこのゲームに熱心で、ゲームの名称も公爵の邸宅のある場所にちなんで「バドミントン」と呼ばれるようになりました。

日本では、昭和5～6年頃から横浜のYMCAで取り上げられたことに始まり、大阪YMCA、神戸YMCAに波及してゆく中、第2次世界大戦の渦中に巻き込まれてゆくこととなる。

終戦後の昭和21年、日本バドミントン協会が創設され、昭和24年には日本体育協会に加盟した。

愛媛県バドミントン協会は、昭和25年に会長上田亮二、理事長松岡吟氏を迎え設立された。

昭和26年に東、中、南予で講習会を開催し、初めて接するバドミントンに魅せられた社会人、高校生が中心となり、普及へと向かった。この講習会の後、昭和26年新居浜西、松山商業、27年松山南、今治北、28年松山東、29年宇和とそれぞれの高等学校にバドミントン部が創設された。

特に新居浜西高顧問片上進、松山南高顧問森部光雄、今治北高加藤三男各氏のバドミントンに対する情熱は、高校生の育成に大きな影響を与えたと思われる。

一方社会人においては、家庭裁判所、地方裁判所、県庁、市役所あたりで行われていたのが、今のバドミントン競技とはほど遠く、いわゆる「羽根つき」程度のものであった。その後愛媛大学、丸善石油（現コスモ石油）、住友金属鉱山別子、住友化学菊本、住友化学新居浜にバドミントン部が創設され、その後クラレ西条にも部が創設され、実業団の全盛期を迎えることとなる。

昭和31年には第1回愛媛県実業団選手権大会を開催し、実業団連盟の発足の因を作った。

当時協会運営はこの実業団連盟関係者を、中心に行われてゆき、昭和38年には四国四県に呼びかけ、第1回四国実業団選手権大会を高松市で開催し、愛媛大学、丸善石油の本県同士の決勝対決となり、愛媛大学が栄えある第1回優勝を飾った。

一方、この実業団とは別に高等学校、大学にも次々にバドミントン部が設立され、さらにクラブ連盟の設立等普及の基盤は確立されていった。ただ、その一方で頂点のレベルアップができない現状が続いた。協会関係者はこの問題の解消方法を模索し、たどり着いた結論がジュニアの育成である。小さい子供達にバドミントンを覚えてもらうには、まずお母さん方

にバドミントンを普及し、その練習についてきた子供たちが見よう見まねでラケットで遊ぶ、そこからジュニアの育成をはじめようという発想である。積極的にお母さん方にバドミントンのPRに務めた結果、バドミントンの楽しさに魅せられ、多くのお母さんたちがバドミントンを楽しんでくれるようになり、昭和53年に家庭婦人連盟（現レディース連盟）が設立された。その後平成2年には教職員連盟、そして平成8年に待望のジュニア連盟（平成12年小学生連盟に名称変更）の設立をみることとなる。数多くの県内大会を開催する一方で強化合宿も度々行っている。また、全国大会にも選手を派遣し、平成12年には第1回全国小学生ABCバドミントン大会では女子Cクラスで大條祐佳李（中萩JBC）が優勝、翌年の第2回同大会では女子Cクラスで倉本実歩（大生院JBC）が準優勝を果たした。

小学生連盟設立から7年を経過した平成14年四国高校総合体育大会で男子団体「新田高校」、女子団体「新居浜東高校」、男子個人戦単「高岡聖」、複「高岡聖・立田勇太」、女子個人戦単「大條亜津紗」、複「大條亜津紗・井上亜沙美」がそれぞれ優勝し、完全優勝を成し遂げた。これまで1種目優勝が難しかったことを考えると、たいへんな快挙といえる。

また、その年のインターハイでは両高校が全国ベスト16に進出し、個人戦でも高岡聖、大條亜津紗が単でベスト16の成績を残した。県内大会でも高校、中学生選手が一般選手を破り優勝、あるいは上位入賞を果たすようになった。一般選手のレベルも上がっているなか、ジュニアの強化が確実に実を結んでいる結果である。ただ、これらの県内優秀選手の高校あるいは大学進学時の県外流出問題、さらにUターン時の県内企業の受入先等解決すべき課題が残されている。

歴　代　役　員

歴代会長・副会長・理事長

(1) 会　長

氏　名	在任期間
上田亮二	昭和25年～昭和27年
中西月竜	昭和28年～昭和34年
古川林三郎	昭和35年～昭和36年
三瀬一三	昭和37年～昭和38年
俊成薫	昭和39年～現在

(2) 副会長

氏　名	在任期間
俊成薫	昭和37年～昭和38年
波多野精美	昭和39年～昭和46年
村岡則章	昭和45年～昭和57年
佐伯光一	昭和47年～昭和48年
野村一弘	昭和50年～昭和51年
俊成美恵子	昭和55年～昭和56年
浜中誠	昭和56年～現在
瀧山一甫	昭和58年～現在
新名静夫	平成3年～現在
野本勝	平成13年～現在

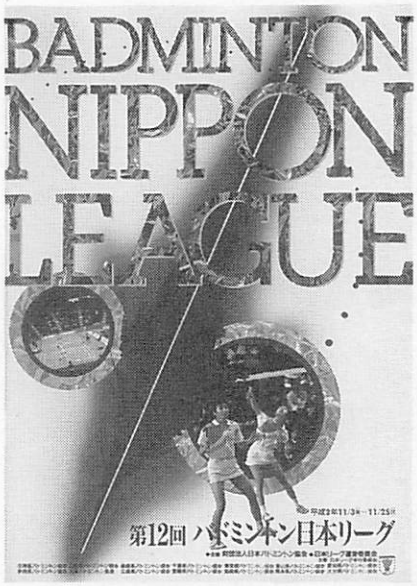
(3) 理事長

氏　名	在任期間
松岡吟	昭和25年～昭和27年
西本義彦	昭和28年～昭和33年
村岡則章	昭和34年～昭和36年
波多野精美	昭和37年～昭和38年
村岡則章	昭和39年～昭和44年
浜中誠	昭和45年～昭和55年
新名静夫	昭和56年～平成2年
野本勝	平成3年～平成12年
浜中勉	平成13年～現在

県内開催の主な全国大会

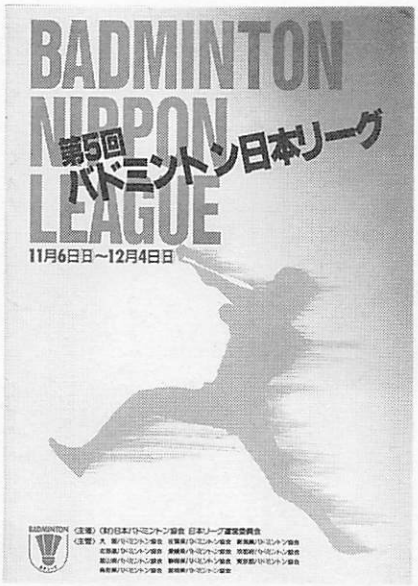
年　代	大　会　名	場　所
1964年(昭和39年)	第14回全日本実業団バドミントン選手権大会	松山市
1972年(昭和47年)	第23回全日本学生バドミントン選手権大会 第21回全日本学生バドミントン東西対抗競技会	松山市
1980年(昭和55年)	第30回全日本実業団バドミントン選手権大会	新居浜市
1981年(昭和56年)	第5回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会	新居浜市
1982年(昭和57年)	第4回バドミントン日本リーグ	新居浜市
1983年(昭和58年)	第5回バドミントン日本リーグ	松山市
1986年(昭和61年)	第3回全日本シニアバドミントン選手権大会	松山市
1987年(昭和62年)	第9回バドミントン日本リーグ	今治市
1987年(昭和62年)	第12回日中バドミントン競技大会	新居浜市
1989年(平成元年)	第2回全日本スポーツレクリエーション大会	松山市
1989年(平成元年)	第13回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会	新居浜市
1990年(平成2年)	第12回バドミントン日本リーグ	松山市
1991年(平成3年)	第1回全日本混合複バドミントン選手権大会	西条市
1992年(平成4年)	第11回日韓バドミントン競技大会	新居浜市
1996年(平成8年)	第13回全日本シニアバドミントン選手権大会	松山市
1998年(平成10年)	第37回全日本教職員バドミントン選手権大会	松山市
1998年(平成10年)	全国中学校バドミントン選手権大会	新居浜市
2001年(平成13年)	第51回全日本実業団バドミントン選手権大会	松山市

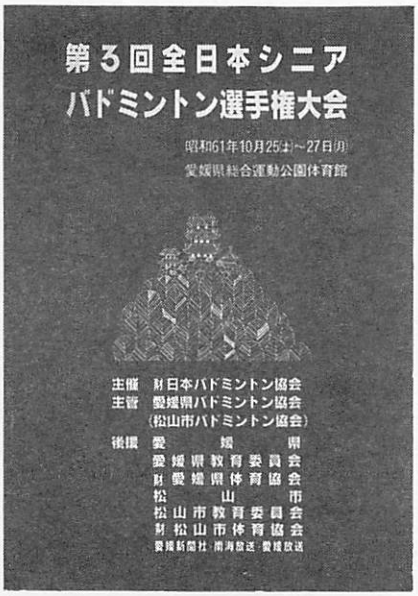
青い海 いきいき愛媛に つどいの輪
第2回全国スポーツ・レクリエーション祭
スポレク愛媛'89
年齢別バドミントン大会
期 日／平成元年10月29日日～10月31日火
会 場／コスモ石油体育館


BADMINTON
NIPPON
LEAGUE
第12回 バドミントン日本リーグ

第37回全日本教職員
バドミントン選手権大会
1998.8.8(土)～8.11(火)
松 山 市

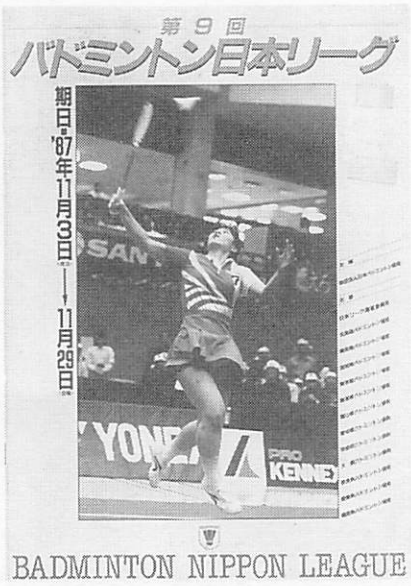
秩父宮妃賜杯・労働大臣杯
第30回
全日本実業団バドミントン選手権大会
1980.6/13～18 新居浜市


BADMINTON
NIPPON
LEAGUE
第5回
バドミントン日本リーグ
11月6日日～12月4日日

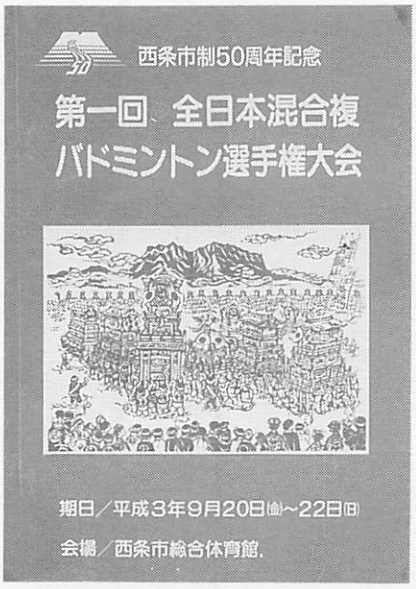

第3回全日本シニア
バドミントン選手権大会
昭和61年10月25(土)～27日(月)
愛媛県総合運動公園体育館
主催 財日本バドミントン協会
主管 愛媛県バドミントン協会
(松山市バドミントン協会)
後援 愛媛県
愛媛県教育委員会
財愛媛県体育協会
松山市
松山市教育委員会
財松山市体育協会
愛媛新聞社・南海放送・愛媛放送

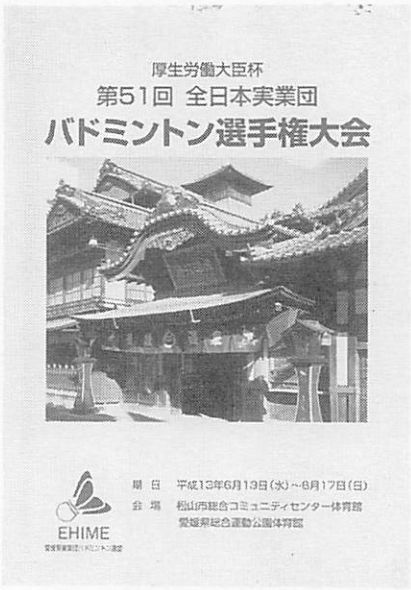
BADMINTON
第4回 BADMINTON NIPPON LEAGUE
バドミントン日本リーグ
9月12日(土)～10月17日(日)

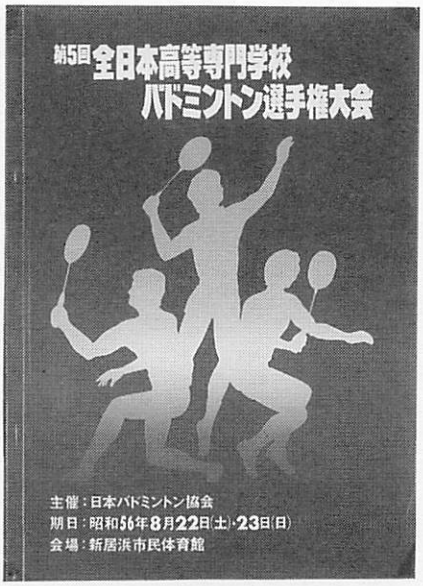
平成8年度
第13回 全日本シニアバドミントン選手権大会
会 期：平成8年10月26日(土)～10月20日(月)
会 場：愛媛県総合運動公園体育館
松山市総合コミュニティセンター体育館
主 催：(財)日本バドミントン協会
主 管：愛媛県バドミントン協会 松山市バドミントン協会
後 援：愛媛県 愛媛県教育委員会 愛媛県体育協会 松山市
松山市教育委員会 松山市体育協会 愛媛新聞社
テレビ愛媛 南海放送

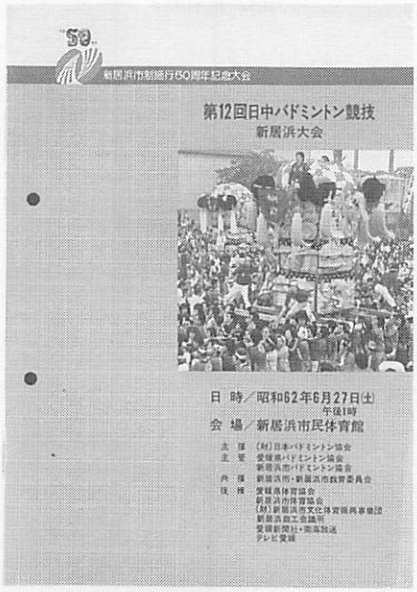

第9回
バドミントン日本リーグ
期日 '87年11月3日(土)～11月29日(日)
BADMINTON NIPPON LEAGUE

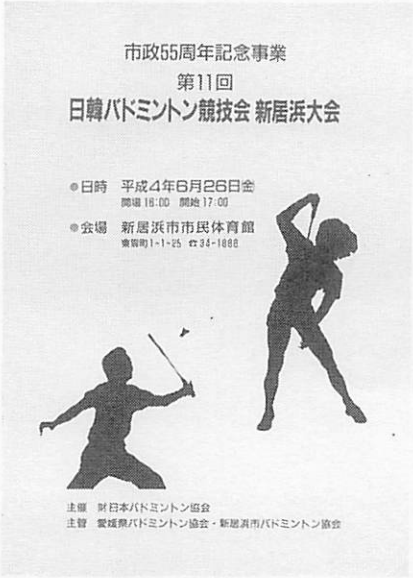
第23回全日本学生バドミントン
選手権大会
第21回全日本学生バドミントン
東西対抗競技大会
1972. 10/31-11/6
MATSUYAMA


西条市制50周年記念
第一回、全日本混合複
バドミントン選手権大会
期日／平成3年9月20日(金)～22日(日)
会場／西条市総合体育館.


厚生労働大臣杯
第51回 全日本実業団
バドミントン選手権大会
期 日 平成13年6月13日(水)～6月17日(日)
会 場 松山市総合コミュニティセンター体育館
愛媛県総合運動公園体育館
EHIME


第5回全日本高等専門学校
バドミントン選手権大会
主催：日本バドミントン協会
期日：昭和56年8月22日(土)・23日(日)
会場：新居浜市民体育館


新居浜市制施行50周年記念大会
第12回日中バドミントン競技
新居浜大会
日 時／昭和62年6月27日(土)
午後1時
会 場／新居浜市民体育館


市政55周年記念事業
第11回
日韓バドミントン競技会 新居浜大会
●日時 平成4年6月26日(金)
開場 16:00 開始 17:00
●会場 新居浜市市民体育館
東雲町1-1-25 ☎34-1888
主催 財日本バドミントン協会
主管 愛媛県バドミントン協会・新居浜市バドミントン協会

第２章　各市町村バドミントン協会のあゆみ

第2章　各市町村バドミントン協会のあゆみ

1　松山市のバドミントン

松山市バドミントン協会理事長
松野木　　聡

昭和25年、当時愛媛県教育委員会指導主事であった田辺義治により紹介されたのが松山市におけるバドミントンの始まりである。

昭和28年、四国で開催された国民体育大会を契機に市議会議員中西月竜が会長になり、理事長に家庭裁判所の西本義彦が就任し、松山市バドミントン協会が設立され、松山市体育協会に加盟した。

市協会は県協会と並行して事業を行うために、会長・理事長などの役員は県協会の役員が兼任した。当時、市内でバドミントンが行われていたのは、一般では家庭裁判所・地方裁判所・県庁・市役所などであり、高校では、松山商業高校・松山南高・松山東高の3校だけであった。各高校ともすぐにクラブとして認められず、1 ～ 2年間はバドミントン同好会として、校舎と校舎の間に紐を張り、練習をしていた程度であった。

国際・全日本大会の開催

昭和28年協会設立後から、市内の職場でも少しずつバドミントンが行われ、特に愛媛大学・丸善石油（現コスモ石油）にバドミントン部が創設され、一方では、各高校からバドミントン経験者が卒業し、職場・大学へとバドミントンの競技人口が少しずつ広がっていった。

昭和39年国際バドミントン大会が済美高校体育館で行われ、デンマーク選手のレシーブ力とスマッシュの早さ、特にコップス選手のバックスマッシュには驚かされた。

昭和40年には全国大会としては初めての全日本実業団大会が開催され、多くのバドミントン関係者が大会運営に当たり、無事終了することができた。その後日本リーグ・全日本シニア大会をそれぞれ2回、更に全国スポレク大会・全日本教職員大会をはじめ、平成13年には2回目の全日本実業団大会を開催したのは記憶に新しいところである。また平成16年度には全国高校選抜大会が、平成19年度には全日本レディース大会が開催される予定であり、ビッグイベントの松山開催も耳慣れたものになった感がある。

松山市民バドミントン大会開催

昭和53年、初めて松山市民を対象にしたバドミントン大会が、約100名の参加を得て行われた。同56年には13年間会長としてバドミントンの普及に尽力した俊成薫が勇退し、後任には市議会議員中西智が、また理事長には三好勝利が就任、20名の理事による新体制がつくられた。

市協会主催の大会はこの年から始まり現在も継続されている。まず5月に団体対抗大会（平成14年度現在で22回）、9月にダブルス大会（平成14年度現在で23回）、11月に市民大

会（平成14年度現在で25回：主管大会）、3月に混合団体大会（平成14年度現在で22回：旧校区対抗）と続いている。更に新しいところでは8月にジュニア大会（平成14年度現在で11回）を設け、続けて実施しているジュニア強化練習（平成14年度現在で12回）と共にジュニア育成に取り組んでいる。

以上大会は年5回を数え、延べ出場選手は1,850人に上っており、現在使用している松山市総合コミュニティーセンター体育館（コート数12面）では、試合を消化できず、ポイント制限をしなければならない状態が続いている。また平成15年度からは、主に中四国のジュニアを対象としたジュニアオープン大会を実施する予定である。

発展するバドミントン

近年愛媛県においてはジュニアの発展に目覚しいものがあり、中学或は高校卒業後に全国の強豪校に引き抜かれるケースが増えてきている。少し前までは見向きもされなかった愛媛のバドミントンが、この様に注目され始めたのは大変嬉しいことではあるが、逆に優秀な選手が愛媛に集まるように更なる努力が必要である。ただ、これは新居浜市の話である。松山市においても松山JBC・東雲BSS・坂本JBCと3チームのジュニアサークルが活動しているが、スタートで新居浜市に遅れをとったためその差はやむを得ない。早く新居浜市に追いつき、追い越してほしい。ただ創部10数年とまだ若い新田高校バドミントン部が、福岡俊作監督の後を引き継いだ出井康貴に徳永督を加え、2名体制で厳しい指導を続けており、平成14年度には四国高校総体3冠独占・国体四国ブロック予選少年の部優勝・全国高校選抜大会出場など輝かしい成績を挙げており、頼もしい存在である。

終　わ　り　に

思えば昭和20年代半ば、県教委の田辺義治によって紹介されたバドミントンが、松山家庭裁判所の中庭で初代理事長となる西本義彦を中心とした仲間たちによって産声を上げ、50余年を経た現在、約600人の競技者が、また大会に出場しないものも含めると1,000人を超す愛好者がいると思われ、練習場の確保が困難な状態を考えると隔世の感がある。

2年前だったか、祝谷にあるベテル病院に西本氏を訪ねた。看護婦さんは「かなり記憶が薄れており、精神的に不安定ですよ。」と心配されたが、とにかく会ってみた。西本氏は車椅子に座っており、こじんまりとしていた。耳が遠いため耳元で大きな声を出して話をしたが、廊下でお会いしたため大勢の人がこちらを見た。「西本さん。松山家庭裁判所でのバドミントンの練習の様子などを話してください。……」彼はしばらく遠くを見つめるような表情をしていたが、やおら「もう忘れてしもた。村前に聞いてくれ。」と言った。忘れてはいない。村前とは松山家庭裁判所で一緒にバドミントンを練習していた仲間の村前定則である。近くで看護婦さん達が心配そうに見守っている。話を終え、お礼を言ったついでに「西本さんは、愛媛県で最初に競技バドミントンを始めた人で、第1号の国体選手ですよ。」と看護婦さんに教えたら、「えっ！」と言ったまま立ち尽くしていた。

村前氏は松山市末広町に在住で、第1回愛媛県バドミントン選手権大会優勝の賞状を持っておられたが、平成14年に亡くなられた。

次の50年はどのようになるのであろうか。競技人口は？ 成績は？ 全国大会の誘致は？興味尽きないところである。まずは松山市バドミントン協会が更に発展し、100周年を迎えられるよう、期待してやまない。

松山市バドミントン協会歴代役員

		会長	副会長	理事長
昭和	28	中西月竜	—	西本義彦
	34	中西月竜	—	村岡則章
	35	古川林三郎	—	村岡則章
	37	古川林三郎	俊成　薫	波多野精美
	38	俊成　薫	村岡則章	浜中　誠
	56	中西　智	村岡則章 浜中　誠	三好勝利
	62	中西　智	浜中　誠	野本　勝
平成	3	中西　智	浜中　誠 野本　勝	浜中　勉
	13	中西　智	浜中　誠 野本　勝 浜中　勉	松野木　聡

現　役　員

役職	氏名
顧問	中村時広
	三好勝利
	浜中　誠
会長	中西　智
副会長	野本　勝
	浜中　勉
理事長（事務局）	松野木　聡
副理事長	岡田竹美
常任理事	平岡ヒフミ
	森田澄江
	楠　孝文
	岡本亮一
	善家光子
	佐伯朋子
理事	末冨美和
	出井康貴
	坂本利夫
	石川明美
	野本淳子
	上野英子
	高橋　徹
監査	三好英樹
	村上順子

2　新居浜バドミントン史

新居浜市バドミントン協会理事長
浜　中　　彰

(1)　黎明期（昭和26年 ～ 昭和29年）

愛媛県バドミントン協会（昭和26年3月6日結成、上田亮三会長）・県教育委員会が共催し、西日本バドミントン協会理事長斎藤実氏と関西選手権ホルダー原恵二氏を招いて、昭和26年6月5日に宇和島市、6日に松山東雲高校講堂、7月に新居浜西高講堂でバドミントン教室が開催された。（愛媛新聞　昭和26年6月7日から）

新居浜西高講堂では午後3時から西高生と地域の社会人若干名が集まり行なわれた。その後、講習会でバドミントンに取り付かれた学生たちが当時の新居浜西高体育教官・片上進氏（現新居浜市バドミントン協会名誉会長）の周りに集まり新居浜西高バドミントン部を結成した。松山南高などではすでにバドミントンは行なわれていたようだが（愛媛新聞　昭和26年6月4日から）、正式に部活として誕生したのは県下第1号であった。

同年9月30日に開催された国体予選では、高校生男子の部で重松武（松南）、山口淳（新西）、前野敏彦（新西）が、高校女子の部では寺岡久美子、笠井みつる、明星信子（すべて新西）が代表となっている。一般男子は藤田早雄、加藤三男（以上今北教）、西本義彦（家裁）が代表となっている。（愛媛新聞　昭和26年10月2日から）

さらに同年11月に開催された愛媛スポーツ祭では高校生・社会人の区別なくトーナメントが行われ、男子単では山口淳（新西）が村前（家裁）と決勝を行い準優勝に輝いた。女子は単複とも新居浜西高が上位を独占した。出場高校には松山南、今治西、新居浜西の3校があった。

昭和27年の県スポーツ祭では松山南、松山東、松山商業、宇和、今治北、今治南、新居浜西の7校と急に参加高が増え、新居浜西が男女とも個人戦でベスト4に進出できなかった。これは1年間でレベルが上がったと解釈していいのだろうか。

このように昭和26年、27年のわずか1年あまりで高校でのバドミントンの普及とレベルアップは著しいものがあったと思える。その先陣を切ったのが新居浜西高であったことは愛媛の歴史に刻んでおこう。

(2)　実業団全盛期（昭和30年 ～ 昭和46年）

昭和30年代初頭から新しい流れが見え始めた。松山の丸善石油、新居浜の住友金属鉱山別子鉱業所、住友化学菊本、住友化学新居浜と相次いで県内の大企業にバドミントン部が誕生したのである。実業団時代の到来である。

新居浜では住友金属鉱山別子鉱業所が最初の実業団チームであった。新居浜市惣開町3番地の鉱山記念講堂にて約10名ほどが週1回の定期練習を始めた。当時、新居浜市出身で法政大学にて競技経験のある藤田恵弘氏（香川相互銀行）が、新居浜西高の指導を行なっており、その高度な技術を学ぼうと、実業団の部員が西高へ足を運んでいたといわれている。（藤田恵弘談より）その後まもなく、住友化学菊本製造所と新居浜製造所に実業団チームがで

き、記念講堂で合同練習を行うようになった。

住友金属鉱山は、昭和32年8月岐阜市で開催された第7回全日本実業団選手権大会に監督：山本元旦、選手：伊藤和代、寺沢晴代、本藤俊子、西原小夜子で構成した女子チームを参加させている。これが新居浜の実業団で初めて全国大会に参加したチームである。男子は、昭和33年第2回実業団選手権において初出場ながら見事県制覇を果たしている。さらに、、続く昭和34年第3回県実業団選手権においてこの大会から初出場の住友化学が全勝優勝を成し遂げ、新居浜のレベルの高さを印象付ける結果となった。その年、善通寺市で開催された第9回全国実業団選手権大会には、県代表として後述の新居浜市の男子3チームが初参加している。

〈住友化学新居浜〉 監督　平井　純

選手　平井　純、大島宗紀、豊島　進、矢野　晃、福井久男、奥田義雄、近藤忠徳

〈住友化学菊本〉 監督　野崎義之

選手　越智勤也、三苫孝一、玉井保孝、高橋義人、佐伯　伝、和田伸一、安藤　弘

〈住友金属鉱山〉 監督　尾崎舜朗

選手　尾崎舜朗、須藤晃一、川上達久、冨加見正、小野光宏

県内の他チームを抑えての全国大会出場は、部を結成してすぐにできるものではない。ここに至るまでの企業の物心両面の援助と、恵まれない練習環境にもめげず厳しい練習を続けた部員たちの努力によって成しえたものなのである。

昭和34年以降、住友化学菊本と住友化学新居浜は全国実業団選手権に連続して出場しているが、最初の数年は、苦汁を嘗めさされていた。全国のレベルの高さをいやというほど味わわされたことは、更なる練習の励みになっていったのである。

そして昭和39年度、松山市で開催された第14回全日本実業団で、地元の利も手伝ってやっと初の入賞者を出した。30歳代複3位の福井久男・神野恒信（住友化学新居浜）と40歳代単2位の安藤八郎（住友化学）であった。それ以降新居浜の実業団には栄光の歴史が次々と加わっていった。

〈昭和40年度〉　北九州大会

30歳代複4位　福井久男・津吉哲郎（新居浜）

40歳代単2位　越智勤也（菊本）

4位　安藤八郎（菊本）

40歳代複2位　越智勤也・安藤八郎（菊本）

〈昭和41年度〉　大阪大会

30歳代単4位　三苫孝一（菊本）

40歳代単4位　安藤八郎（菊本）

〈昭和42年度〉　勝山大会

30歳代単3位　三苫孝一（菊本）

40歳代複3位　越智勤也・安藤八郎（菊本）

40歳代単優勝　越智勤也（菊本）
〈昭和43年度〉　諫早大会
40歳代複3位　越智勤也・松本貞夫（菊本）
〈昭和44年度〉　釜石大会
40歳代複3位　安藤八郎・福井久男（新居浜）
〈昭和45年度〉　高松大会
40歳代単2位　千葉重信（菊本）
3位　越智勤也（菊本）
40歳代複3位　越智勤也・千葉重信（菊本）
〈昭和46年度〉　鹿児島大会
30歳代複3位　三苫孝一・千葉重信（菊本）

そして、昭和56年新居浜の実業団チームが解散するまで約25年間、歴史は続いたことになる。しかし、実業団の功績はただ単に大会結果にとどまらなかった。優秀な人材を輩出してきたのである。長年事務局を務めた越智勤也氏は片上進会長を支えて地域のバドミントン普及に貢献し、かつ後進の指導に尽力した。あとを引き継いだ安藤八郎氏も同様であった。そして、昭和51年組織編成後初代理事長となった福井久男氏もやはり実業団出身者であり、平成元年まで底辺の拡大に尽力した。その他多数の実業団出身者が今なお協会運営、地域サークルの指導において活躍している。実に実業団の影響力は現在も続いているのである。

実業団の華々しい活躍と期を同じくして地道な活動をしていたグループがあった。愛媛大学工学部職員である。30年台から学内の2面の体育館で昼休みを利用して高橋博計、白石邦夫、真鍋隆則、梅木哲郎の各氏らが中心になり20名ほどでプレーを楽しんでいた。昭和37年新居浜高専開校、昭和39年工学部松山移転などでそれ以降は大半が高専職員となった。工学部と共に松山に移った中には後に県協会で活躍する新名静夫氏（現県バドミントン協会副会長）がいた。40年台に入り、このサークルからは中江重樹氏（現県バドミントン協会副理事長）が育ち、さらに学生時代からから競技実績のある平木弘一氏（現市バドミントン協会審判部長）も加わった。

(3) 普及第一波（昭和45年 ～ 昭和51年）

昭和45年第1回市民体育祭が開催され、男女の区別なく一般の部として新居浜、金子、高津、神郷、浮島、泉川、角野、中萩の8校区の参加が記録されている。ところが、昭和49年の第5回大会では、男子14校区、女子13校区の参加と飛躍的に伸びている。「スポーツの盛んな町」をスローガンに始まった市民体育祭だけに、行政があらゆる種目の普及に対して力を入れていた時期だった。その行政の呼び掛けに応じられる優秀な指導者が多数育っていたことが、上述のような爆発的な普及に繋がったのではないかと分析している。当時各校区の小中学校体育館・講堂で行ったバドミントン教室「スポーツ健康教室」

は、次々と愛好者を増やしていき、ほとんどの校区にサークルができるまでになったのである。主な指導者に中江重樹、越智勤也、三苫孝一、福井久男、佐薙勲、安藤八郎、千葉重信、平木弘一などの各氏がいた。

また、家庭婦人もこの頃に普及したと伝えられている。昭和42年住友化学体育館、昭和47年住友重機体育館と相次いで企業の体育館が落成した。まずは、住友化学体育館で社員の奥さんたちが現在のグリーンクラブを結成した。これが家庭婦人チームの始まりである。その後企業の体育館を利用した家庭婦人サークルが次々と誕生し、また同時に、スポーツ健康教室出身の家庭婦人も校区サークルで活動をはじめた。昭和48年新居浜市バドミントン協会が主催し、第1回新居浜市婦人バドミントン大会が開催された。これが県下最初の家庭婦人大会であり、新居浜は家庭婦人においては先駆者的立場であったことが伺える。それから3年後の昭和51年11月21日に県家庭婦人大会が実現したが、実に参加11団体のうち、新居浜は大多数にあたる10団体を数えた。内訳は山田、前田、山田前田、ひまわり、住重婦人、の企業の婦人クラブと宮西、高津、垣生、泉川、角野の校区クラブであった。

昭和46年住友化学体育館において、当時全日本実業団女子優勝チーム「百十四銀行」を招いて住友化学男子チームと交換試合が行われ、ハイレベルな実技を披露し、関心を引いた。

その他、昭和48年には新居浜南高が創部している。

(4) 協会再編成（昭和51年）

この数年間に校区と家庭婦人の愛好者が飛躍的に伸びたため、時代は協会の組織化を要求することになった。

それまでは、規約が明文化されておらず、協会役員は会長と事務局長の2名のみであり、その2人を中心に当時の三大勢力である実業団の住友化学菊本、住友化学新居浜と新居浜高専職員が大会やイベントのたびに協力し運営していたのである。

昭和51年4月21日、『新居浜市バドミントン協会規約』を定め、各校区・サークルの代表者を理事に、また、普及活動に携わっていた指導者を常任理事に任命し、総務部、競技部、審判部、指導部、財務部の五つの専門部に分け、運営に当たることになった。現在の協会同様、会長、副会長、理事長、常任理事、理事のポストを作り再スタートを切ったのである。会長には引き続き片上進、初代理事長には住友化学新居浜の福井久男が就任した。

(5) 普及第二波（昭和52年 ～）

待望の市民体育館が昭和52年7月31日竣工した。100円の入場料を払えば入館でき、気軽にバドミントンを楽しめることから、市民体育館を利用する愛好者が増えてきた。実業団でも校区サークルでもない一般サークル、家庭婦人サークルがこの期を境に次々と誕生していったのである。（例・新居浜愛好会、双葉の前身の紫陽花）また、市民体育館を利用して家庭婦人・小学生・中学生のバドミントン教室が開催されたのも普及に貢献した。

(6) ビッグイベント開催（昭和55年）

昭和45年から始まった普及第一波、第二波により、人口13万都市にしては十分過ぎるほど底辺が拡大し、かつ協会組織も充実してきた。次なる目標は、全国大会の誘致であり、それを契機にレベルアップに繋げていきたいというものである。市民体育館落成により施設面でも大会を受け入れるだけの条件は整ってきた。

そして、待望の全国大会、第30回全日本実業団バドミントン選手権が新居浜市で開催された。団体戦に145団体、個人戦を合わせて706名の参加に及び、市民体育館、住友重機体育館、住友化学体育館野3会場を使用し、レセプション等を含めれば6日間に及ぶビッグイベントであった。

この大会は、協会役員、実業団選手、家庭婦人、一般サークル、校区サークル、学生などすべてのバドミントン愛好者が一丸となって運営に当たった。特に実業団出身の福井久男理事長は1カ月間仕事を犠牲にして、毎日大会準備に尽力した。

その後、新居浜では日本リーグ、日中競技会、日韓競技会、西日本家庭婦人、全国中学校選手権など次々とビッグイベントを開催していった。これらの大会の成功はバドミントン愛好者が一丸となったからであることは間違いないが、瀧山一甫氏（現県バドミントン協会副会長、県レディース連盟会長）の存在も忘れてはならない。氏は学生時代関西学連で活躍し、社会人時代もバドミントン業界で活躍するなど、以前よりバドミントン界に精通していた人材で、中央とのパイプ役、イベントノウハウの提供などで貢献した。

(7) 昭和末期（昭和56年 ～ 昭和64年）

実業団が崩壊してからの新居浜は、県のトップ争いに加わることはほとんどなく、県選手権の年代別で若干の活躍をするにとどまっていた。

ところが、昭和62年度の県選手権では松井哲（菊本同好会）が並み居る強豪選手を撃破して、男子40歳代単を衝撃的に制し、複でも公文英治（菊本同好会）と組み、制したことは印象的である。さらに翌年の昭和63年度国体予選複において、森川均・西原賢一（スマッシュ）が決勝まで勝ち進んだ。同年の県選手権一般男子複でも、森川均・西原賢一と秋山亨・金浦新吾（高専クラブ）が決勝まで進んだ。実に森川、西原、秋山の三人は新居浜勢であり、県一般男子における新居浜勢同士の決勝は史上初の快挙であった。これらの結果は来たるべき新居浜時代を予感させるものがあった。

また、双葉チームは全国家庭婦人大会の上位入賞を目指し、レベルアップを進めていた。

(8) 平成時代（平成元年 ～ 現在）

組織編成以降14年間続いた福井理事長が平成元年度をもって辞任し、安藤守理事長が就任した。既に普及が行き届いた新居浜にとって欲しいものは、やはり実績である。昭和末期の新居浜勢の意外な活躍は、他のプレイヤーにも影響を与え、頂点を目指す選手が増えてきた。また、着実に実力を付けてきた家庭婦人の双葉の活躍にも大きな期待がかかった。

早速平成2年全国家庭婦人選手権クラブ対抗の部で双葉（監督：瀧山一甫　選手：長井雪子、秦由美子、伊藤トシ子、白石久代、佐々木恵子、松永幸恵、河村麗子、阿賀田仁美、梶岡由美）が見事初優勝の吉報をもたらした。さらに双葉は、平成6年、平成10年、平成14年と全国制覇を続けている。

県大会でも新居浜勢が次々と上位に名乗りをあげはじめ、、一般男子単、40歳代男子単では上位を占めるという現象も出てきた。例としては平成5年度国体予選成年男子単では日野豊、河端裕二、田坂厚司（いずれもスマッシュ）の3名でベスト4を占めた。しばらく結果が出せなかった一般女子の部でも、平成3年度社会人選手権で伊藤昌子（双葉）単複優勝、続く平成4年、日野千秋（双葉）単複優勝と結果が出た。複のパートナーはいずれも須山好恵（双葉）であった。また、平成6年度団体総合選手権でスマッシュ（浜中彰、日野豊、山田浩、田坂厚司）が新居浜勢としては14年ぶりに優勝を飾り、さらに平成7年度も勝ち2連覇を飾った。

四国大会でも次々と好成績をもたらしてきた。主なものに、安藤守（菊本同好会）平成2年度四国社会人50歳代男子単複2冠、河端裕二（スマッシュ）平成5年度一般男子単準優勝、山田裕子（パンドーラ）30歳代女子単二連覇、逸見寛二（西高教員）40歳代男子単二連覇、大中康貴（スマッシュ）40歳代、浜中彰（ラケットショップ）四国実業団40歳代男子単三連覇などである。

この時期はまた普及においても、小学生（ジュニア）が8校区まで増え、中学も川東中1校から北中、東中が加わり、高校は工業、東高が加わるとなど成果が上がっている。普及と実績と両面に及ぶこれらの成果は、新居浜時代と呼ぶに相応しい時期であった。

ところが、新居浜時代の真っ最中、不景気の波が襲ってきた。スポーツ界に影響が出はじめるのは時間の問題であった。また、各年代層への普及による多様化、愛好者の意識の変化など今後の普及への問題点も出始めた。平成5年浜中彰（現新居浜市バドミントン協会理事長）は、次世代の人材養成とサークル間の交流を念頭にリーグの設立に動き始めた。そして、平成6年4月「新居浜リーグ」が立ち上がった。その後参加チームはゆるやかな増加の一途を辿り平成14年現在11部66チームが加盟し、市内のさまざまな体育館で、対戦が行なわれている。

平成10年4月大幅に人事が変わり、会長に福井久男氏、理事長に浜中彰氏が就任した。これにより「ミスター＝スポーツマンシップ」片上進氏が47年に及ぶ会長の任期を終え名誉会長となった。一人から始まって新居浜に一大バドミントン王国を築き上げるまでの47年間であった。その間、氏の熱弁は常にバドミントン愛好者の心に影響を与え続けた。片上氏の精神は、後進の人たちに引き継がれていくことは間違いないだろう。

3　西条市バドミントン協会の歩み

西条市バドミントン協会理事長
小　橋　和　子

昭和36年　クラレ西条工場にバドミントン同好会が発足
昭和37年　市役所を中心としてバドミントンが普及した。
昭和42年　第1回西条市民親睦バドミントン冬季大会が市教育委員会主催で行われ、90人位の参加があった。
昭和48年　バドミントン普及活動、公民館主催のバドミントン教室を開催。
教室終了後に各地区にクラブが誕生した。
昭和49年　西条市バドミントン協会設立
昭和50年　第7回ユーバー杯チーム合宿（クラレ体育館）
昭和53年　第8回ユーバー杯チーム合宿（クラレ体育館）
昭和56年　第9回ユーバー杯チーム合宿（クラレ体育館）
昭和61年　第11回ユーバー杯チーム合宿（クラレ体育館）
西条市総合体育館完成
平成2年　第13回ユーバー杯チーム合宿（クラレ体育館）
平成3年　第1回全日本混合バドミントン選手権大会開催

歴　代　役　員

(1) 会　長

氏　名	在　任　期　間
前川　城	昭和49年～昭和50年
尾崎康博	昭和51年～平成3年
藤田光男	平成4年～現　在

(2) 理事長

氏　名	在　任　期　間
横井虎男	昭和49年～平成4年
谷口金夫	平成5年～平成12年
小橋幸雄	平成13年～平成14年
小橋和子	平成15年～現　在

現在行われている大会

(1) 西条市民親睦冬季バドミントン大会　(昭和42年)
(2) 西条市民親睦夏季バドミントン大会　(昭和49年)
(3) 西条市民総合体育大会バドミントン協技　(昭和56年)
(4) アキオスポーツ西条オープンバドミントン大会　(昭和61年)
(5) 会長杯西条オープンバドミントン大会　(平成6年)
(6) 四電杯西条オープンバドミントン大会　(平成7年)
(7) 年齢別西条オープンバドミントン大会　(平成10年)

昭和49年に西条市バドミントン協会が設立され、横井虎男、谷口金夫両氏のバドミントンに対する情熱、技術の探求心が現在の西条市の隆盛をもたらしたものと考えます。

同時に昭和49年、西条農業高等学校（顧問　池田節幸）にバドミントン部の創設、昭和54年に西条高等学校にバドミントン部が創設され、昭和56年には顧問に逸見寛二氏が就任され、又、ユーバー杯の合宿を4回もクラレ体育館に誘致された事により、西条市バドミントン愛好者に対する技術向上と底辺拡大に大きな影響を与えたと思われます。

今後はジュニアの育成はもちろん、生涯スポーツとしてバドミントンの役割と競技スポーツの振興に努力する所存であります。

4　今治地域のバドミントン

今治市バドミントン協会理事長
村　上　孝　蔵

黎　明　期

今治地域のバドミントンは、昭和26年に、当時今治北高校におられた加藤三男先生が同校で初めて同好会を創ったのがはじまりであると聞いております。その後、47年に今治工業、51年に今治南、弓削へと広がり、実業団のない今治ではそれぞれ高校のOBが主体でした。

実績面では、昭和28年に今治北高が初めて優勝して以来、昭和の時代の今治地域のバドミントンの歴史は輝かしいものでした。中でも30、40年代には今治北高OBの井門氏が電々東京（現NTT東日本）のキャプテンとして、実業団のトップレベルで活躍し、近藤稀人氏（現 今治協会会長）は、昭和30から8年連続で国体出場の偉業をなし、又、40、50年代、八木優氏は村上孝蔵氏（現在 今治協会理事長）と共に国体に出場し、現役引退後は、今治北高のコーチとして、10数回に渡り県代表として同校をインター杯に出場させた優秀な指導者であったことは周知の事実です。又、後に弓削高、今治工業、今治南高からもインター杯出場者が出ました。特に今治南OBの日下氏、上川氏、日下光子さんは社会人となった今も県下トッププレーヤーとして活躍中です。

今治協会の誕生と現状

当協会の誕生は、昭和35年頃から今治北高OBの柿原幸安氏（今治協会 初代会長）、白石浩二氏（現 副会長）等が結成していたプーナ会（バドミントン発祥の地プーナ地方から命名）が中心となって市当局に働きかけ、昭和46年に第1回の市民バドミントン大会が開催されました。その時に市体育協会に加盟し、正式に今治バドミントン協会が設立しました。市民大会も当時は参加者も今治北高のOBがほとんどで、会場も今治北高の体育館を使用しておりました。

その後、昭和53年に今治市営体育館が建設され、同時にバドミントン教室を開く等、地道な努力により、一般愛好者や家庭婦人へと広がっていき、バドミントン人口も今では300名を越えております。

現在、当協会では、第41回の市民大会、第16回の市長杯、第6回のダブルス大会、第6回のオープン大会、今年始めたしまなみ大会と5大会を毎年行っておりますが、今後の当協会の発展を考えるとき、今なすべき事業計画も今尚模索しているのが現状です。

将 来 の 展 望

この近年、当地域は、松山、新居浜に比べ色々な面で遅れております。他地域でのジュニアの発展と高校生、実業団の活躍は目覚ましいものがあり、愛媛のバドミントンが年々確実に向上しているのを肌で感じております。又、常々指導者の方々のご努力にも敬意を表しております。

今後は、今治協会におきましても愛媛のバドミントンの発展に少しでも寄与すべく、又、当地のバドミントンの活性化を目指し、将来に向けてジュニアの育成と中学校での部の創設、又、実業団チームの創設と大きな夢に向かって地道に活動して行きますので、県協会役員各位、他市協会の皆様には今後とも宜しくご指導をお願い致します。

5　伊予三島のバドミントン

伊予三島市バドミントン協会会長
一　柳　初太郎

昭和50年豊岡小学校体育館落成校庭開放事業で夜間開放されたのを契機に3～4名が羽根突き程度を行っていた。

昭和57年？ スポレク西条管内大会が当市で開催された時にバドミントン競技のみ運営する団体が有りませんでした。伊予三島4万の市に競技種目が無いなら自分たちで作ろうと、愛媛新聞社にバドミントンの講師紹介をお願いしましたところ、福井久男新居浜協会長を紹介され、1年半の長きに渡りボランティアで、豊岡小学校で手ほどきを受けバドミントン競技の持つ面白さ、楽しさ、大会運営の仕方を教わり、有難うございました。それを元資に、昭和62年伊予三島バドミントン協会を設立。平成元年8月運動公園体育館が建設され、これを契機に県バドミントン協会にお願いし新居浜の浜中理事長さん、県クラブ連盟の中江先生、県協会審判部千葉さん、谷口さん、遠藤青汁の池さん等の講習会を行い、また、ヨネックス社に再三無理を申し上げ講師（斎藤先生、海道先生、江連先生）派遣に応じていただきました。

㈶伊予三島体育協会レベルアップ教室では、陣内貴美子さん、米倉加奈子さん、赤尾亜紀さんとヨネックストップ選手の招聘をお願いし多くの方が受講しました。

さて当協会での大会ですが

7月	三島港祭り協賛大会　ミックス大会	第10回
3月	三島オープン大会　男女別	第20回
4月	四国中央オープン大会	第 8回

この3大会は高知県、香川県、愛媛県の交流の場となっています。

これらの大会の支援を願いましたヨネックス、レッドソン及び運動具店各位にお礼申し上げます。

おかげで現在運動公園2階バドミントンコートは予約3ケ月待ちの状態です。

多くの愛好者を協会に迎え入れるためには、より大きな組織つくりとリーダーの養成を痛感し、今後に備えたいと考えます。

第3章　各連盟のあゆみ

第3章　各連盟のあゆみ

1　愛媛県教職員連盟

教職員連盟
逸　見　寛　二

県教職員連盟の創立

長年本県のバドミントン界は関係者の努力にもかかわらず、全国的に見てジュニア層の育成が立ち遅れた感があった。中学、高校の部活動を指導できる人材が少なく、バドミントンに興味を持ち、プレーすることのできる教職員を増やすことが急務であった。そのような背景の中、本連盟は平成3年に、教職員バドミントン競技の普及と発展を図り、会員相互の親睦を図ることを目的として創立された。初代会長に元高体連専門委員長の石丸良男氏、理事長に元県協会理事長の新名静夫氏が就任し、その活動を本格的に開始したのである。十数年経った今、中学、高校の顧問も増え、教職員の競技レベルも向上し、徐々にではあるがその成果があがりつつある。

県教職員大会の歴史

昭和54年を最後に国体の教員の部が廃止され、それに伴って、国体県予選教員の部もなくなり、その後は、教員だけの大会は実施されないまま10数年が過ぎた。連盟創立の動きに合わせ、県教職員のクラス別大会とし平成元年に第1回県教職員大会を実施した。当時、教職員の中では第一人者であった逸見寛二がシングルスの初代チャンピオンになった。その後台頭してきた秋山啓太は10連覇を成し遂げ、現在に至っている。又、全国教職員連盟の趣旨に則って、息の長いプレーヤーを目ざしてもらうため、10回以上出場者には5回きざみの出場回数による表彰なども行っている。また現在では、全日本大会の県代表選手選考会を兼ねる大会として、トップレベルの選手の目標の大会ともなってきている。

全日本教職員選手権大会への選手派遣

過去に昭和45、48年に参加した実績が記録に残っているが、それ以後は長年出場していなかった。連盟創立に合わせ、久しぶりに平成3年第30回大会に男女9名で参加し、男子40歳単で逸見寛二が2位、女子30歳複で石田信子、逸見都が3位になる健闘をみせた。その後も毎年参加し続け、年齢別個人戦で新名静夫、山内敏男、秋山啓太、平木弘一（男子）、田村文子、伊勢元るり子（女子）が3位以内に入賞している。さらに、この大会の特徴として、県対抗の団体戦が男女の団体（1複2単）だけでなく、男子成壮年団体（30、40、50歳の3複）があり、各県

のベテランの味のある試合が展開される。本県も、この種目に出場できる選手層が整ってきており、上位入賞をめざしてがんばっている。

全日本教職員選手権松山大会の開催

平成10年8月、松山市で第37回大会を全国各地から約500名の監督、選手を迎え盛大に開催した。この大会は、県協会と松山市協会の絶大な協力により大成功に終わることができた。特に、審判団の充実ぶりは画期的なもので、全国大会の敗者審判制度廃止のきっかけとなった。また、本県のエース秋山啓太（男子30歳単3位）、の活躍が大会に花を添えた。

最　後　に

選手強化の中心が学校体育から社会体育へ移行する波の中で、学校スポーツの持つ意義を再認識し、バドミントン競技の普及、発展と選手の育成に力を注ぐことが、我々の教職員連盟の使命と考え、これからも一層の努力をしていきたいと考えている。

昭和62年・第42回国体（沖縄県糸満市）

2　家庭婦人の活動

愛媛県レディースバドミントン連盟事務局長
須　山　好　恵

★　バドミントンの普及

昭和40年代中頃より、松山地方では末富美和が中心になってグループが出来、東予方面ではクラレ西条・住友各社の家族を中心に企業の体育館を使用しての活動が始まり、徐々に県内各地域に愛好者が広がった。

当初は県協会主催の社会人大会等では家庭婦人が上位を占めたが、それらの人たちの活動が家庭婦人の競技人口の拡大に貢献したものと思われる。

また現レディース連盟会長瀧山一甫のネットワークで愛媛から京都オープン大会への参加が実現し、昭和56年にはその大会を参考にした家庭婦人のオープン大会が四国で初めて新居浜市で開催された。その後松山市などでも家庭婦人対象の大会が次々と開かれ、普及は急速に進んだ。

★　愛媛県レディースバドミントン連盟の設立

昭和53年、瀧山一甫の尽力で、5年後の日本家庭婦人バドミントン連盟設立に先駆けて、愛媛県家庭婦人バドミントン連盟が設立され、会長　俊成美恵子、　理事長　小橋和子、事務局　渡邊馨子の初代役員で活動を始めた。昭和62年より、会長　瀧山一甫、　副会長小橋和子、　理事長　長井雪子、　事務局　須山好恵の体制で現在までに至っている。名称は平成12年より日本連盟に合わせて、家庭婦人からレディースに変更された。

平成15年度の登録会員は、合計30クラブで約420名に昇っている。四国内では最も多い。

★　愛媛県レディースバドミントン選手権大会

始めの2年は春秋の年2回の大会を開催したが、昭和55年より秋の1回に統一され、毎年11月もしくは12月に「愛媛県レディース（家庭婦人）バドミントン選手権大会」として、ＡクラスからＤクラスまでの個人戦を行っている。平成9年からダブルスのみになった。会場は昭和62年までは松山市、西条市、新居浜市を順に移して行われたが、翌63年より日野昭子の努力で競技人口が増えた今治市が加わって4会場で開催され、参加者数も増えている。南予からの出場が少ないが、高速道路の開通で今後は増える事を期待している。

★　全日本レディースバドミントン競技大会

昭和58年、東京都で「第1回全日本家庭婦人バドミントン競技大会」が開催された。3ダブルスの団体戦で、第1回は都道府県対抗のみで参加は24チーム、現在の二部制約90チームに比べれば小ぢんまりしたものであったが、愛媛県も四国では香川県と並んで初参加を果した。小橋、長井、須山ら現在の連盟役員が選手として出場したが、学生時代の経験者がほとんどのこの大会では、善戦はしたが結果を残す事は難しい状況だった。

第2回より「都道府県対抗の部」に加え、家庭婦人になってから競技を始めた者のみで構成される「クラブ対抗の部」が出来た。愛媛県からは毎年四国予選を勝ち抜いて1 ～ 2チーム

出場し、年を追う毎に成績も上がっていったが、平成2年第8回大会で「双葉」が初優勝を果たし、平成6年、10年、14年と連続優勝、平成8年、12年には「西条バードクラブ」が連続優勝の栄冠を勝ち取っている。（優勝すると3年出場できないので、連続となる）4回の連続優勝は全国で「双葉」のみで、この記録を破る事はほとんど不可能に近い状況ではないかと思われる。他に「松山市民クラブ」「マーガレット」などが複数回出場している。

★　西日本家庭婦人バドミントン大会

平成7年新居浜市において、日本家庭婦人バドミントン連盟主催の「西日本家庭婦人バドミントン大会」が開催され、300名余りの選手が2会場に分かれて戦った。合計年齢でブロックに分けるダブルス個人戦であるが、初めて予選リーグを取り入れた事が大変好評で、以降この大会は予選リーグ方式が定着した。平成18年の高知大会を最後に、この大会は、全国大会個人戦となる事が決まっている。

★　今後のレディース連盟の活動

学生時代の経験者が家庭婦人となる事により、大会のレベルアップが期待されるが、同時にジュニアへの影響も大きい。バドミントンの楽しさを知ったお母さんが目標になったり、ボランティアで面倒を見てくれる地域の先輩に助けられたりしながら、ますます競技人口は増える事だろう。

平成19年には松山市で全国大会を開催する計画である。連盟設立当初に比べ、松山市内の家庭婦人の活躍が目覚ましいが、これらの若い人達のエネルギーで、役員・選手1,000人近く集まる大会運営も何とか成功させる事が出来ると確信している。

連盟の設立に携わり、30年近く家庭婦人の活動を支え、見守ってきた瀧山会長の貢献は今後の歴史に残るものであろう。

愛媛県レディースバドミントン選手権大会入賞者

年度	回数	ダブルス		シングルス	
		1位	2位	1位	2位
昭和53年	第1回	小橋和子・黒子俊美（西条バード）	渡辺馨子・栗林峯子（新小ク）（神郷ク）	小橋和子（西条バード）	渡辺馨子（新小ク）
	第2回	渡辺馨子・須山好恵（新小ク）（惣開）	小橋和子・越智テル子（西条バード）	小橋和子（西条バード）	渡辺馨子（新小ク）
昭和54年	第3回	渡辺馨子・須山好恵（新小ク）（惣開）	小橋和子・黒子俊美（西条バード）	小橋和子（西条バード）	石田信子（愛大ク）
	第4回	渡辺馨子・須山好恵（新小ク）（惣開）	小橋和子・黒子俊美（西条バード）	小橋和子（西条バード）	渡辺馨子（新小ク）
昭和55年	第5回	小橋和子・黒子俊美（西条バード）	須山好恵・藤本寿子（惣開）	小橋和子（西条バード）	石川いく子（泉川）
昭和56年	第6回	渡辺馨子・須山好恵（新小ク）（惣開）	小橋和子・黒子俊美（西条バード）	小橋和子（西条バード）	渡辺馨子（新小ク）
昭和57年	第7回	小橋和子・黒子俊美（西条バード）	渡辺馨子・須山好恵（新小ク）（惣開）	善家光子（松山市民ク）	渡辺馨子（新小ク）
昭和58年	第8回	小橋和子・黒子俊美（西条バード）	石田信子・兵頭美和（愛大ク）	小橋和子（西条バード）	石田信子（愛大ク）
昭和59年	第9回	善家光子・兵頭美和（松商OG）（愛大ク）	小橋和子・上田真知子（西条バード）（砥部ク）	小橋和子（西条バード）	善家光子（松商OG）
昭和60年	第10回	善家光子・兵頭美和（愛大ク）	小橋和子・上田真知子（愛大ク）	善家光子（愛大ク）	小橋和子（西条バード）
昭和61年	第11回	善家光子・上田真知子（愛大ク）	石田信子・小橋和子（愛大ク）（西条バード）	善家光子（愛大ク）	小橋和子（西条バード）
昭和62年	第12回	須山好恵・高橋知子（双葉）	上田真知子・野村りえ（砥部ク）	岡田竹美（松山市民ク）	長井雪子（双葉）
昭和63年	第13回	小橋和子・上田真知子（西条バード）（砥部ク）	長井雪子・須山好恵（双葉）	小橋和子（西条バード）	上田真知子（砥部ク）

年度	回数	ダブルス		シングルス	
		1位	2位	1位	2位
平成元年	第14回	小橋和子・上田真知子 (西条バード)(砥部ク)	門屋弘子・河村智恵美 (ハルトノ)(石井ク)	小橋和子 (西条バード)	河村智恵美 (石井ク)
平成2年	第15回	小橋和子・上田真知子 (西条バード)(砥部ク)	善家光子・河村智恵美 (愛大ク)(石井ク)	伊藤昌子 (双葉)	小橋和子 (西条バード)
平成3年	第16回	小橋和子・上田真知子 (西条バード)(砥部ク)	善家光子・河村智恵美 (みゆき)(三島ク)	小橋和子 (西条バード)	日野千秋 (双葉)
平成4年	第17回	石田信子・小橋和子 (愛大ク)(西条バード)	須山好恵・伊藤昌子 (双葉)	伊藤昌子 (双葉)	小橋和子 (西条バード)
平成5年	第18回	白石美和・佐伯玲子 (西条バード)	須山好恵・伊藤昌子 (双葉)	白石美和 (西条バード)	伊藤昌子 (双葉)
平成6年	第19回	白石美和・佐伯玲子 (西条バード)	小橋和子・石田信子 (西条バード)	白石美和 (西条バード)	小橋和子 (西条バード)
平成7年	第20回	多胡久美子・井上扶由子 (西条バード)	小橋和子・石田信子 (西条バード)	白石美和 (西条バード)	小橋和子 (西条バード)
平成8年	第21回	小橋和子・井上扶由子 (西条バード)	白石美和・佐伯玲子 (西条バード)	白石美和 (西条バード)	小橋和子 (西条バード)
平成9年	第22回	小橋和子・井上扶由子 (西条バード)	武智五十鈴・山下文恵 (UBC)		
平成10年	第23回	白石美和・山田祐子 (西条バード)(パンドーラ)	武智五十鈴・山下文恵 (UBC)		
平成11年	第24回	山田祐子・日野千秋 (パンドーラ)(双葉)	白石美和・藤田伊津子 (西条バード)(チームブローイン)		
平成12年	第25回	山田祐子・白石美和 (パンドーラ)	藤田伊津子・菅野早苗 (チームブローイン)(松山市民ク)		
平成13年	第26回	小橋和子・井上扶由子 (西条バード)	白石美和・横井真紀子 (GoGo'S)		
平成14年	第27回	日下光子・谷口和美 (西条バード)(チームレオ)	白石美和・佐伯玲子 (GoGo'S)(西条バード)		
平成15年	第28回	日下光子・谷口和美 (西条バード)(チームレオ)	藤田伊津子・金浦ルミ (チームレオ)		

3　愛媛県中体連バドミントン専門部の歩み

愛媛県中学校体育連盟バドミントン専門部
坂　本　利　夫

愛媛県バドミントン協会創立50周年にあたり、心よりお慶び申し上げます。

若輩者の私ですが、専門部長の立場から本誌を執筆させていただくことになりました。

そこで、この機会に県中体連における、バドミントンの歴史を紐解かせて頂きたいと思います。

さて、今年で53回を数える県総体の歴史の中で、バドミントン競技が初めて開かれたのは、昭和58年度の第35回大会にさかのぼります。坂本史雄専門部長のもと、女子だけで行われ、泉川中学の優勝が記録されています。その2年後には、矢野純子専門部長に変わるとともに男子大会も併せて行われて、土居中学が優勝しました。ただし、四国大会の記録によると、昭和55年度の四国大会（愛媛開催）に寺尾勇専門部長のもとで、愛媛県代表選手が出場していますが、残念ながら県総体を行った記録は残っていません。

そして、昭和62年度から大江保専門部長が3年間、平成2年度から池田尚子専門部長が2年間務められ、その後を私が引き継がせて頂いています。

ところで、この20年程の間、県総体をリードしてきたのは、男子は土居・川東・中萩中学校であり、女子は泉川・川東・中萩中学校の東予勢でした。中でも、泉川から川東中学校に異動されて、バドミントンの火を灯し続けた西原隆教諭（現在、船木中学校）の尽力には、頭が下がる思いであります。

さて、ここ数年間にバドミントン専門部では、3つの大きな変革が行われています。

その1つは、平成5年度から実施された四国大会への参加校枠の拡大です。団体戦の県1校枠が2校に増やされました。このことにより、県内チームは活性化されて大いに奮起したものです。私自身も、県2位チームを四国大会へ連れて行けるという恩恵に預かることができました。しかし、この変革を喜ばずに憂う人がいました。前述の西原氏です。それは、これまで四国大会4チームの中から2チームが全国大会への切符を獲得していたものが、変革後は香川県の2チームが勝ち残ってしまうというのです。つまり、「四国4県の中で2番手にあたる愛媛県であっても、香川県の2位チームに勝てない」という、厳しい現実があったのです。それほど、香川県と他3県の間には大きな実力差がありました。このことは、平成5年度の全国大会で、香川県の2チームが決勝戦を争ったことや、平成6年度の全国大会で香川県の男女がアベック優勝し、男子が2連覇を飾ったことからも判ります。愛媛の中学生バドミントンが、ようやく軌道に乗った時には、すぐ隣に、常に全国トップレベルの香川県がいたのでした。

2つ目は、四国大会へのシングルス枠の拡大です。平成8年度に四国から全国へのシングルス枠が従来の2から3へと増えた事に準じて、各県から四国へも3シングルスに増やされました。四国4県の専門部ではかねてより、個人戦2複2単を4複4単に増やすよう切望して

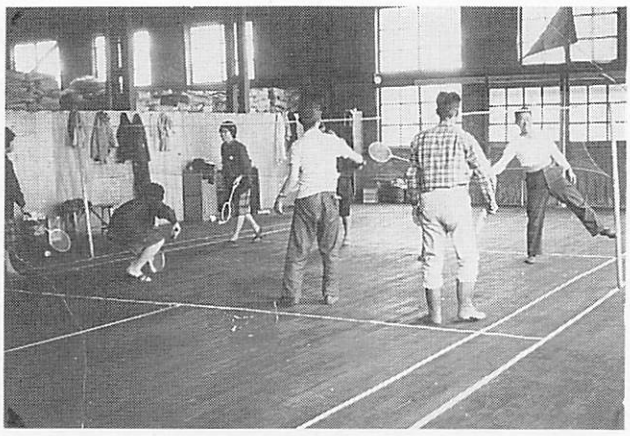
きましたが、それが部分的ですが認められたことになりました。もちろん、4複4単への要望は今後も出し続けていく予定です。

3つ目は平成12年度からのシャトルの変更です。それまで、中体連の大会はすべてナイロン球が使用されていました。小・高・大学生・一般の大会がすべて水鳥球を使っている中で、これは特異なことであり、中学生が水鳥球を使用していくことに対しては選手育成面のメリットと経費面でのデメリットとで、長年にわたり論議が繰り返されてきました。そして、ついに水鳥球導入ということで決着がつきました。これは、今後の中学生バドミントンにおいて、戦術・費用面で多大な影響を与えることと思われます。

さて、最後になりましたが、平成9年度には、愛媛県新居浜市において全国大会が開催されました。「体育館も暑かったが、新居浜の人情も厚かった」という東北ブロック長の言葉に象徴されるように、残暑の厳しい中、大勢の方々の尽力により、大成功の内に大会の幕を降ろすことができました。これもひとえに、新居浜市教育委員会・新居浜市バドミントン協会・新居浜市中体連等、多数の方々の御協力の賜といえます。

また、おかげさまで選手強化も充実し、平成10年度の四国大会では、川東中学校の男子が優勝、女子が準優勝という快挙を上げてくれました。まさに、香川県に追いつけ、追いこせの勢いです。個人戦においても近年は、全国大会のベスト16・ベスト8に入る選手が現れ、県内レベルの向上にも著しいものが見られます。

これまで、選手の育成に深い理解と協力を頂いた、バドミントン協会の方々に感謝の意を表するとともに、今後の中学生バドミントンの更なる躍進と、選手の未知の可能性に期待したい次第であります。



昭和28年　職場での練習風景

4　愛媛県小学生バドミントン連盟

理事長
高　岡　幸　男

バドミントンにおける小学生の活躍を紐解いてみると、昭和60年に京都において現在の若葉カップの第1回大会がジュニアジャパンカップバドミントン大会の名称で開催され、愛媛からも惣開クラブがこの大会に出場している。平成4年には日本ジュニアバドミントン連盟が発足し、第1回全国小学生バドミントン大会が開催される。平成10年に日本バドミントン協会への加盟が承認され、名称を変更して日本小学生バドミントン連盟が誕生する。

愛媛県においても、昭和60年前半にはジュニア育成の気運が高まり、新居浜市内に高津、惣開、続いて、金子、中萩、大生院のジュニアクラブが活動を始め、その後新居浜の神郷、宮西、大島、そして越智郡の朝倉、中予地区の松山、川上、ＵＢＣ、南予の野村、喜多のクラブが活動を始める。

バドミントン協会の指導で第1回ジュニアクラブ指導者打ち合わせ会議がクラレで開催され、現四国小学生バドミントン連盟理事長の中江重樹を中心に組織作りが始まる。平成8年、会長に新名静夫、理事長に水野清志が就任し、愛媛県ジュニアバドミントン連盟が発足する。中予に東雲、坂本のクラブが誕生し、役員10名、14クラブ、会員353名のスタートである。平成9年には竹俣明氏を松山に招きバドミントン教室を開催する。平成10年に四国各県から287名の選手の参加を得て第7回四国小学生バドミントン大会を新居浜で開催する。

平成12年には愛媛県小学生バドミントン連盟と名称を変更、新名静夫会長、高岡幸男理事長の新体制がスタートする。同年、日本小学生バドミントン連盟の松田新二郎育成指導部長を松山に招いて指導者講習会を開催する。同年、四国小学生バドミントン連盟が発足、平成14年からは設立当初から愛媛のジュニアを見続けてきた中江重樹が四国ブロック理事として就任し現在にいたる。

平成15年、役員28名、19クラブ、会員約300名という状況にある。未登録者も含めると県下の小学生のバドミントン人口は約500名にのぼると思われる。

この間、愛媛の小学生は四国大会・全国大会においても優秀な成績で上位に入賞してきている。平成12年度に日本バドミントン協会の主催で開催された「全国小学生ABCバドミントン大会」の第1回大会において、女子Ｃクラスで大條祐佳李（中萩）が見事全国制覇をし、また、その翌年の第2回大会でも、同じく女子Ｃクラスで倉本実歩（大生院）が準優勝を成し遂げたのは記憶に新しい。また、多くの卒業生が全国中学総体、ジュニアオリンピック、インターハイ、ジュニアグランプリ、国民体育大会等で着実に成果を上げており、大変喜ばしいところである。

今後は、特に中・南予地区への普及を目標に会員数の拡大に努め、全国で通用する優秀な人材の発掘に貢献したいと考えている。また、強化練習会、指導者講習会を各地で開催することにより、多くの小学生がバドミントンと出会い、そして一人でも多くの一般愛好者が小学生にその楽しさを教えていただくようになれば幸いである。

第4章　寄　　稿　　文

第4章　寄　　稿　　文

愛媛県バドミントン協会創立50周年を迎えて

㈶日本バドミントン協会顧問
愛媛県バドミントン協会副会長
濵　中　　誠

愛媛県バドミントン協会が設立され50周年を迎えることが出来ましたことを皆さんと共に慶びたいと思います。

愛媛のバドミントン発展のため協会員が一体と成り各種大会の誘致開催（国際大会、日本リーグ、実業団大会、社会人大会、学生大会、中学生大会、混合ダブルス大会、教職員大会）等この30年間に日本のほとんどの大会を開催することが出来ました。

30 年 程前には中学生のバドミントン人口を増すため各学校へのバドミントン部設立を御願いしましたが、初めはハゴ板遊びで運動ではない。次は（10年後）金がかかりすぎる等で相手にしてもらえませんでしたが最近、有志の皆さんが小学生、中学生を対象に社会体育や、クラブチームを作っていただき、今では全国でも上位選手を生む事が出来る様に成りました。

思えば私もバドミントンを始めて45年、その間各種役員を日バ理事（10年）、日実連(35年)、県体協理事、松山市体協理事等をさせていただきました。

又、大会では国体（選手4回、監督8回、役員6回)、県選手権大会成年の部15年連続優勝、全国大会（社会人、実業団、シニア）12回優勝、国際大会ではシニア世界選手権大会60歳単で優勝、台湾モーニング大会6回優勝、ワールドマスターズ世界大会ダブルス優勝等ですが、何より大会に参加して多くの友達（米国人、台湾人、韓国人、マレーシア人及び各県の方々）を知る事が出来たのが私の最大の財産です。

愛媛のバドミントン界で私が最初の文部大臣杯体育功労賞授賞及び日バ、日実連の技能賞、又、日バ、日実連、県、市等の功労賞を受賞することが出来ました。これ等すべてバドミントンを愛続したおかげと思います。

バドミントンと共に50年

愛媛県バドミントン連盟副会長
瀧　山　一　甫

愛媛県バドミントン協会創立50周年まことにおめでとうございます。創立当初にかかわられた人たちのご苦労は大変な事だったとお察し申し上げます。

私の愛媛県在住の旧制中学から新制高校にかけて（昭和21 ～ 27年）は、今治ではまだバドミントン競技は行われておりませんでした。その後すぐ今治北高校へ加藤先生が赴任されバドミントン部を創られました。私はその後京都府立大学へ進学してそこでバドミントン競技と出会い、28年のインカレ（第４回）に出場いたしました。4年生の時に横浜で行われた全日本総合選手権大会に出場したのを最後に、殆ど全国大会に出場しなくなりました。当時の昭和20年代はバドミントンを知る人は少なくシャトルコックのケース（サンバダ製）が真赤だったのでお巡りさんからそれは何だと不審尋問されたという笑い話があったほどです。

今70歳になってからはバドミントンプレーではなく「羽根つき」と原点にかえりました。昭和30年始め日本のバドミントン界が初めて海外と正式な試合をおこなったのはトーマス杯アジア予選で川口氏（大阪YMCA）団長の日本チームであったと思います。当時は学生がトップレベルでしたので慶應、立教、横浜国立大学、関学、同志社のメンバーでしたが香港チームに全敗して帰って報告会を開き、その折買ってきたラケット（英国製）、シャトルコック（英国、デンマーク製）を見てこれでは用具についても世界には勝てないと思いました。

その後日本のレベルは当時の人たちの努力でうなぎ登りに上がり、ついに女子は世界一のユーバーカップを何期も保持出来る程になり、個人でも全英選手権シングルでご存知のように高木紀子、湯木博江の両人は何回もチャンピオンになり、湯木博江はバドミントン殿堂入りまではたしました。

当然日本でもトーマス杯、ユーバー杯の大会が開催されました。昭和39年に愛媛県へトーマスカップのメンバー（デンマークのコップス選手等）を招いての親善大会を住友化学（当時）の越智氏や浜中副会長等が誘致に努力され、成功したのには皆がビックリしました。私はその時東京におりタイチームのホスト役ををおおせつかって色々タイチームのお手伝いをしました。練習会場でその練習ぶりを見て素晴らしいプレー、中でもハイバックには目をみはりこれはタイ国が優勝するのではないかと思いましたがフタを開ければインドネシアが劣勢と言われていたにもかかわらずデンマークを下し連覇しました。

わが国の用具もメーカーの努力で飛躍的によくなり今や世界のトップメーカーにヨネックス、ゴーセン、ミズノと名を連ねるようになりました。

愛媛県協会もその後全日本実業団大会を何度か、その他シニア大会、教職員大会、日本リーグと主管能力を認められビッグイベントを行っておりますし、今後も高校選抜やレディース大会の開催の予定ですが先人達の熱意が今の態勢を築いたものでしょう。

そして現在の皆さん方、とくに指導者の方々の熱心さには頭がさがりますが、この事は次の時代に必ず花が咲くと確信しております。愛媛県協会もジュニア、中学、高校、レディース、と丁度バランスが取れており若い人たちが運営にたずさわって益々良い方向に向かっているようです。非常に難しい国際審判員の資格を取られた浜中理事長を中心に今後の50年はより一層充実した発展期を迎える事と思っております。出来得れば愛媛県からオリンピックに出る選手が出来るだけ早く現れんことを念じて終わりといたします。

50 周 年 に 寄 せ て

愛媛県教職員バドミントン連盟
愛媛県小学校バドミントン連盟
会長　新　名　静　夫

愛媛県バドミントン協会創立50周年を心からお慶び申し上げます。創立当初から今日に至りますまで、協会発展にご尽力いただきました歴代協会役員の皆様のご労苦に対し、深甚なる敬意を表します。

私とバドミントンのつきあいは、40年前、当時新居浜にあった愛媛大学工学部に就職したときに始まります。先輩達が楽しんでいるのを見て、軽い気持ちで始めたのが、今になって思えば間違い？のもとだったように思います。

元来凝り性の上に世話好きの私は、選手としてのめり込むと同時に、やがて工学部の松山移転後は、協会役員として手を染めることとなりました。

娘が幼稚園入園式の日「お父さんのお仕事は？」と聞かれ、「バドミントン協会」と答えたということを、付き添っていた妻が聞いて帰り、笑っていたのが昨日のことのように思われます。

月日のたつのは早いもので、その娘も今や一児の母親となりました。私もこの本が出る頃には41年間の公務員生活を終えていることと思います。

県下のバドミントン競技の普及発展は着実に進行しています。その背景には県協会下部組織の充実が大きな要素を占めていると思います。実業団連盟をはじめとする各連盟及び各市町村協会の役員の皆様方、あるいは各サークルの指導者の皆様方のご努力の賜と存じます。

平成29年国体の愛媛県開催を控え、さらなるレベルアップが求められています。目先の頂点にこだわることなく、将来を見据えた指導が求められています。各年齢、各層への普及を通じて底辺拡大をはかるとともに、国際的に通用するプレーヤーの育成を目指して、私たち連盟と私個人も微力ながらお役に立てればと考えています。

最後に愛媛県バドミントン協会の益々のご発展を祈念して、あいさつとします。

50　周　年　に　寄　せ　て

新居浜市バドミントン協会
名誉会長　片　上　　進

愛媛県バドミントン協会におかれましては、此処に、輝く創立50周年を迎えられましたことは誠に目出たく、謹しんでお喜び申し上げます。

戦後の疲弊と混乱がやや好転し始めた五十年前、初めて見るスポーツ、バドミントンが我が国に上陸し、本県でも、松山裁判所を始め、3、4の高校によって始められましたが、場所、用具から、練習、試合と試行錯誤・難渋の連続でしたが、協会の発足により指針を得て、今日見るように、県下津々浦々にまでバドミントンの楽しさを恵与して戴いた県バドミントン協会の偉大な業跡に敬意を表し、感謝申し上げます。

国のスポーツ振興法でも、国民人口の半数が直接参加する事を望んでおられるようですが、県下バドミントン人口の増大が望ましく、その中から県を代表し、国を代表して活躍する名競技者が続出してくれる事をも熱望致します。

発足50年を迎えた県バドミントン協会の栄光を称え、益々の御活動、御発展をお祈り申し上げます。

昭和58年度・第5回バドミントン日本リーグ
（県総合運動公園）

50 周 年 に 寄 せ て

横　井　虎　男

バドミントン協会設立50周年おめでとうございます。半世紀の長きに亘り成長を遂げられ、数多くの全国大会を誘致し、夫々大成功された先人の御苦労に対し、心から敬意と感謝の意を表わすものです。振り返りますと私も約30年余り県協会にお世話になってまいりました。特に浜中副会長には、バドミントンの「いろは」から教わった気がします。

西条市のバドミントンも、松山の実業団チームの数人を連れて御指導に来ていただいた事から始まりました。それから先輩達に追い付け追い越せと切瑳琢磨したものです。最近は、生活意識の変化や、健康志向の高まりによりスポーツ人口は増加したもののレクリエーションスポーツに親しむ人が増え、競技スポーツとして捕える人が少なくなってきました。企業でのスポーツも俗に言う工場選手的扱いも殆んど無くなってきました。愛媛県のバドミントンも未だ中学校にもチームが出来ない状態ですが、これからの増加と併せてジュニアクラブの増加に力を入れる必要があるのではないでしょうか。そして一貫して基礎指導の出来る人材育成配置にも力を入れる必要があると思います。50周年を迎え、より一層の競技力アップと協会の発展を遂げる為の岐路に立っているのではないでしょうか。

私も微力ではありますが少しでも先輩からの御尽力に対する御恩返しをしたいと考えております。そこで私がナショナルチームの西条合宿の際、コーチから聞いた事で大変参考になり自分自身も常に心掛けて来ましたし、又家庭婦人等にも言っていることを綴ってみます。それは基礎練習の心構えです。一つ一つのショットには夫々意味があるので、それを念頭に置いて練習することです。例えばクリヤー一つ打つのでも、バックエンドに立って来たシャトルを打つのではなく、打った後は必ず前に出てホームポジションでレシーブに備える、という事です。すべてのショットが必ず構えてそのパターンが終わるという事が大事だと言っていました。私もそれまではヘヤピンの練習でもネットに付いたまま打っていましたがそれからは極力足を踏み出して取り、少なくとも1歩は後に帰るよう心掛けてみました。この様に簡単な事の一つ一つの積み重ねがトータルの実力アップとなると思います。特に若い学生諸君は短時間で実の有る練習をする事が大事です。出来れば参考にして欲しいと思います。

以上私の受け売り話を述べましたが、勝つ為の練習には是非必要な事だと思います。

最後になりましたが、先人の培ってこられた協会がより一層限りない発展を遂げられる様協力を惜しまない事をお誓い申し上げ、協会50周年のお祝いと後輩に対するアドバイスを添え寄稿の言葉とさせていただきます。

50 周 年 に 寄 せ て

谷　口　金　夫

この度、愛媛県バドミントン協会設立50周年記念として、バドミントン協会50周年記念誌が発行されますこと、大変喜ばしく、バドミントン競技愛好者の1人として、心からお祝を申し上げます。

設立時の昭和25年頃は、戦後の混乱期も落着をみせ、日本経済もやっと安定し、大企業等に於ても機械化が導入され、労働時間も徐々に短縮されて、余暇時間が増え、我々の生活の中にも少しづつゆとりが生まれ、余暇を有意義に過ごすため、スポーツ活動への関心が高まっていった頃だと思います。

健康で豊かな社会生活を送るため、個人的にも、社会的にも福祉向上の一環として、スポーツは大きな役割りを果して来ました。

21世紀を迎え、益々複雑化する人間関係や社会に於て、ストレス解消や気分転換に、又、余暇を楽しむためのスポーツ等、目的は多々ありますが、スポーツは人間性の回復や、心身の健康の維持・増進等、社会の繁栄と共に、我々の生活の中に深く根をおろす様になりました。

種々のスポーツの隆盛の中で、特にバドミントンは、華麗に舞うシャトルを激しく打つ、リストの使い方、力の強弱でシャトルの行方が変化する、独特の味わいのあるスポーツです。バドミントンの奥義を極めるには、綿密な計画性と、人一倍の忍耐、努力が限りなく要求されるものでありますが、親しみやすいということから、児童から高齢者まで、幅広い層に大変人気の高いスポーツであります。

バドミントン協会も、ここまで発展されたのは、会長始め、先輩諸氏の努力の成果であると敬意を表します。

今後共、確固たる組織体制のもと、バドミントン愛好者の多様な要望に応えうる活動が可能になるものと確信する次第です。

バドミントン協会の限りない発展を心からお祈り申し上げます。

横井虎男　　谷口金夫
全日本実業団バドミントン選手権大会
40歳男子複　5連勝
全日本シニアバドミントン選手権大会
60歳男子複　5回優勝

バドミントンあれこれ

西条市　小　橋　幸　雄

野球からバドミントンに変身したのは、クラレ西条硬式野球部が廃部になった後の昭和45年頃でした。

クラレ西条のバドミントンの名物男『横井虎男・谷口金夫』両氏に、約1年掛かりで説得され、当時26歳位で初めてラケットを握るようになりました。

やり始めると大変おもしろく、毎日、毎日工場の食堂跡（コンクリート）の仮体育館に足を運び、羽根をたたいていました。

先輩の指導がよろしく、メキメキ上達したと自負していますが、今考えると、基本といった専門的なもので無く、力まかせに打つ自己流であったとおもわれます。

当時、県下のバドミントンといえば、丸善石油、住友化学が両横綱でした。この選手達は、なぜあのような奇麗なフォームやフットワークが出来るのか感心しながら大会を見ていました。自分もはやくあのような選手になりたいと打ち方や、グリップの握り方を真似するよう努力しました。今流でいえばイメージトレーニングでテクニックを磨いたといえるかも。私がバドミントン歴で忘れてならないのは、丸善石油の浜中さん（現協会副会長）に数回、遠路西条まで来てもらって指導して下さったのが、大きな収穫であったと感謝しております。

クラレ西条も、昭和49年に待望の体育館が完成しました。

落成記念行事にユーバー杯の代表8名が、強化合宿を兼ねて招いた時に、模範演技としてコーチ役の中山紀子さんと対戦したのですが、カットとクリアーの見極めができず大敗した苦い経験もありました。

大会の数ある思い出として、平成5年全日本シニアで50歳以上シングルス初優勝。平成8年には、50歳以上混合で女房とペアーを組み初優勝したことなどが忘れられない思い出として残っております。

今年で、還暦を迎える年齢となっては、勝負にこだわるバドミントンから、楽しみ、健康維持に努めるバドミントンに切り替え、後10年ぐらいはバドミントンにかかわっていたいと思っております。

大好きバドミントン

小　橋　和　子

結婚して10年目頃、㈱クラレ西条工場に待望の体育館が建設され、昭和50年体育館落成式にユーバー杯・日本代表選手の強化合宿が開催された。その時初めてバドミントンのスポーツの凄さに圧倒され身震いする程感動をした。

優雅な動きの中にもシャトルのスピード、動きの速さ、様々なテクニックにただ唖然とするばかりでしたが「してみたいなー」と安易に考え、主人の古い重たいラケットを譲ってもらい(昭和51年当時32歳)、人も呆れるくらい体育館通いが始まった。

クラレ同好会の方にアドバイスを受け、上手な人のプレイを見ては真似をする、少しづつ身についてくると自然と欲が出、大会にも参加したくなる。県大会に初めて参加、恐れ多くも何の考えもなく1部で登録、もちろん結果はボロ負け、口惜しかったな…。決して生やさしいスポーツでは無いことを実感。とにかく負けた選手に勝ちたかった。(かつての良きライバルでもあり良きパートナーだった。)

毎日5km走り、シングルスに狂い何ゲームも練習し、我が家に着くと食事を作る気力もなかったが手抜きをすると辞めさせられる方がこわい。迷惑はかけたくない。この頃は全てに頑張りとにかく頂点に達したかった。小さな橋から向こうに渡りきればもっともっとバラ色の景色がと自己暗示。

再度挑戦の日が…。勝った。苦しい勝ち方だったが目標達成の喜びも束の間、この1位という座を守るためには明日から又頑張らなくてはという思いが脳裏に浮かぶ。又努力を重ねる。そんな甲斐もあってか国体出場・全日本シニア・全日本混合優勝、数々の優秀選手賞等を頂く。「小橋さん元気だけどいつも何食べてるのですか？」とよく聞かれますが、「貧乏だから粗食に耐えてます。」と冗談を言う。戦時中生まれだから秋刀魚や鰯、豆腐ばかり食べさされていた記憶がある。それが良かったのかも…。「でもねー、私も人間。しんどい時は一杯あった。」「もう一歩、もう一歩。」とあきらめずまだできると頑張った。それに様々な方が陰になり日向になって勇気づけてくれた事が最高のエネルギーでした。

私の所属する西条バードクラブも私の歩みとともに25年。アヒルの学校が今では文部大臣賞・社会体育優良賞・スポーツ優秀賞と名誉ある賞を頂き、全日本レディース大会では2度優勝と素晴らしいチームになった。白鳥とまでいかないが熱心な個々の努力・チームワークが実を結び今も健在である。25年。本当に永い永い道のりだった。思えば家族が一番の犠牲だったかも知れないと反省しつつまだ現役を去ろうとしないのが、バドミントンの本当の魅力を知ったからかもしれません。もう少しバドミントン仲間と夢を追いかけたい…。本音は若い人たちが羨ましい。色々なファッションもしてみたいが無理、ささやかにシャトルを追いかけよう。

クラブの困り者（もん）

末　冨　美　和

「もう、20年以上の付き合いだけど側にいると、ホント疲れるのよねぇ。若い時はすぐ人につっかかるし…。いつぞやは体育館裏のやくざ屋さんの車とケンカして、まあ昼間やからむこうも手出しせんかったけど、『轢いたる！』ゆうて後からジワジワ車寄せて来るんやから、生きた心地せんかった。

「そうそう、かき氷の早喰いに挑戦するゆうて、一番町のクレープ屋に連れて行かれたことがある。付添い頼まれて。食べてる間中周りからジロジロ見られて恥ずかしかった。洗面器位のボール一杯の氷をかき込むんよ。60秒オーバーで1万円券はダメで、6千円券になって、何でも上にフルーツが沢山のってたのがイカンゆうて悔しがってた。

「あれで結構そそっかしい。トレーナーやジャージーの前後、よく間違えてる。何年も前のこと。新居浜行くのに、朝早くマンションの下まで迎えに行ったら、ちょうど同じ時に止まった前の知らん車の後部座席にバッグを積もうとしていたから、慌てて名前呼びましたよ。その車の人驚いたやろね。

「胃切った、乳癌やゆうて散々心配させといて、見舞いに来たらいかんて我儘言うし、病院行ってもベッドに居りゃあせん。足の骨、折った時なんて誰も心配せんかった。

「京都オープンに行ったとき、皆で土産物を見てたら、いきなり『あなたら金魚のウンコみたいについてこんといて！』って、さっさと一人で行ってしもうたね。おどろいた。

「スポレクの山梨大会の開会式。全員整列して～宮様の祝詞を聞いてるのに、一人最後列へまわって、後向きでゲストの鳳蘭に両手振ってる写真が、翌日の地元紙の一面にデカデカ載って、あれ本当は愛媛県の恥じゃったんよ。望遠で撮られたから知らんと。

「部内での注意はこれ又厳しい！ 何人泣いたことやら…。私等ホント我慢強いと思う。年とってきて、少しおとなしなってきたから近頃ラクになったねえ。ま、厄介な人やけど松山市民クラブと松山市レディース連盟にずーっと関わってきとんやから、本音は別にしといて一応、たてとかんと…。

「ハイ。本当にご苦労さまでぇーす。」

全員でがっしょう（合唱・合掌??）

高校バドミントン部を指導して

逸　見　寛　二

高校教員としてバドミントン部の指導を始めて早くも24年がたちました。弓削高校、西条高校、新居浜西高校の3校で、全国大会の出場を目指し、そしてさらに全国の上位入賞を目指した指導を行ってきました。選手とともに汗を流した日々を振り返ってみたいと思います。

まず、弓削高校（4年間）では離島の様々なハンディを乗り越えて、女子複で2回のインターハイ出場を果たしました。中でも、昭和55年には県1、2位を独占して2組出場し、団体こそ優勝できませんでしたがそれに匹敵する活躍でした。このことは監督の私自身にとっても大きな自信となりました。当時本県の高校バドミントン界は中学校時代の経験者はほとんどおらず、実力的には全国的にも下位の方であったと思います。高校での伸び率だけでは決して他県に負けてはいなかったつもりですが、経験の差はいかんともしがたく全国では2回戦が精一杯でした。次の西条高校（10年間）では、昭和61年の男女団体のアベック優勝と、この年から5年連続団体優勝の県新記録を作った女子の黄金時代が思い浮かびます。この間女子は四国のトップをも維持し、四国選抜と四国選手権で県勢初の団体・複・単の全種目優勝、国体四国予選での連続優勝などを成し遂げ、高校の3大大会（全国選抜、インターハイ、団体）にほとんど毎年出場しました。特に女子複では2年連続全国ベスト8になるなど、全国でも十分通用するまでになりました。この頃から中学校からの経験者も徐々に入部するようになり、全国を目指す指導者にとって、その真価が問われる時期になり始めた頃であったと思います。次の新居浜西高校（10年間）では、練習は短時間集中型でしたが、技術面だけでなく体力面の強化が効を奏し、女子団体で同校43年ぶりの優勝をスタートに6年連続優勝をしました。この間四国大会でも、その粘り強い試合運びで毎年上位を争い、全国では中位以上の実力を維持していました。特に、女子複では四国で優勝し、全国ベスト8にもなりました。このように監督としてインターハイに16回、全国高校選抜大会に11回の出場を果たし、活躍できたことは私自身の大きな誇りであり、このことが本県の高校バドミントン界のレベル向上に少しでも役立ったとすれば大変うれしいことです。これからも、バドミントン競技発展のため全力を尽くしていきたいと思っています。

若　　い　　力

松野木　　聡

昭和42年4月、私は松山市立勝山中学に入学した。当校では毎週月曜日に朝礼があった。校長、生徒指導の各先生の話が終わり教室に戻る時、決まって行進曲「若い力」がスピーカーから流れた。初めてその曲（音）を聞いた時、「何とひどい音なんだろう。」と愕然とした。聞こえてくるのは殆どが雑音（ノイズ）なのである。清水小学校時代、私は放送委員をしていたこともあったため、特にその事が気になった。清水小学校は、放送担当の矢野一刀先生のご努力でかなり設備的にも充実しており、いつも良質な音を耳にしていたため、特にそのギャップに驚いた。私は中学2年の夏休みの時、拓南中学に転校したため、それ以降ノイズを耳にする事は無かった。しかし、明るく、躍動感溢れる行進曲「若い力」は私の脳裏に残り、よく頭の中で演奏されていた。ただ不幸な事に、頭の中での演奏の時も決まって例のノイズも一緒なのである。しかし流石に年を経るにつれ、その回数は減り、最近は殆ど演奏されなくなっていた。

平成11年10月23日、熊本県民総合運動公園陸上競技場は、抜けるような秋空であった。私は田坂厚司君・安永圭一君・高橋徹君の3名を擁する国体成年男子チームの監督として、他の愛媛県選手団と一緒にサブグラウンドに控えていた。私は国体初出場であった。時間が過ぎ、行進のためぞろぞろとメイン競技場の方へ移動した。競技場入り口付近には地元のスタッフが列を作り、入場していく選手団に拍手や声援を送ってくれた。それに対しひょうきんに応える選手も居て、とても良いムードだ。いいもんだなあと思う間も無く、いきなり競技場の中へ入ってしまった。すごい音だ。すごい拍手だ。ものすごい迫力だ。足が地に付かない様な行進をして、芝の上に立った。スタンドは観客・選手で満員だ。入場行進が終わり、スタンドには静寂が戻った。それから粛々と式典が始まった。例によって長い祝辞や歓迎のことばが続き、ややだれてきた矢先、アナウンスが大会歌斉唱を告げた。どんな曲かなと思う間も無く、熊本県下から選りすぐられたブラスバンドチームによる大会歌の演奏が始まった。それは大音響だった。しかし、その大音響が1小節も終わらないうち、私の思いは遥か過去の勝山中学の運動場に飛んでいってしまった。「若い力」だ。あの雑音だらけの「若い力」が、何十年ぶりかで力強く、私の耳に飛び込んできた。顔面に鳥肌がたった。眼に熱いものが込上げてきた。感激した。この思いは、一生忘れられないと思った。

試合は1回戦で大分県と対戦し、勝利した。チームを代表し、私が審判用紙に勝者サインをした。至福の一瞬であった。

平成11年・第54回国体（熊本県八代市）

バドミントン、万歳

名　智　　満

愛媛県バドミントン協会の50周年という節目の時を、役員の1人として迎えられたことを、心から嬉しく思っております。

私がバドミントン競技を始めた昭和45年当時は、日本女子がユーバー杯を保持し、世界チャンピオンも有しながら、世間の評価は非常に低く、スポーツというよりはレクリエーションとしてしか見てもらえず、悔しい思いをしたものでした。競技者も少なく、高校男子はわずか5校だったことを覚えています。（もっとも、私自身がバドミントンをやろうと思った動機こそ、やってる者が少なく、簡単にやれると思ったからなんですけれど。）

それから30年以上経ちましたが、今でもバドミントンと関わりをもち続けられていることに不思議な気がしています。これも、諸先輩のご指導と同期生の友情（！）のおかげと感謝しております。

特に、高校時代と大学時代にペアを組んだ2人が、県協会、市協会の役員として獅子奮迅の活躍をしている姿を見るにつけ、頭の下がる思いで、できる限り協力しなくてはと思っています。

先般、大学時代の他校のライバルと卒業以来はじめて再会し、一緒に酒を飲む機会がありましたが、バドミントンのことになるとその何十年の空白も一気に埋まり、昨日のことのように話に花が咲きました。これも、一つのことにお互いが汗と涙（？）を流したからだと思います。一つの事柄を共有できるって、本当に素晴らしいことですね。

自分の人生にとっても、もはやバドミントンは切っても切れないものになっています。プレーをすることはほとんどなくなりましたが、いつまでも何らかの形でバドミントンに関わっていきたいと改めて思っています。

バドミントンの良さをできるだけ多くの人に知ってもらい、今以上にバドミントン人口が増加するように、微力ながら頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

昭和53年・第33回国体（長野県塩尻市）

50 周 年 に 寄 せ て

岡　田　竹　美

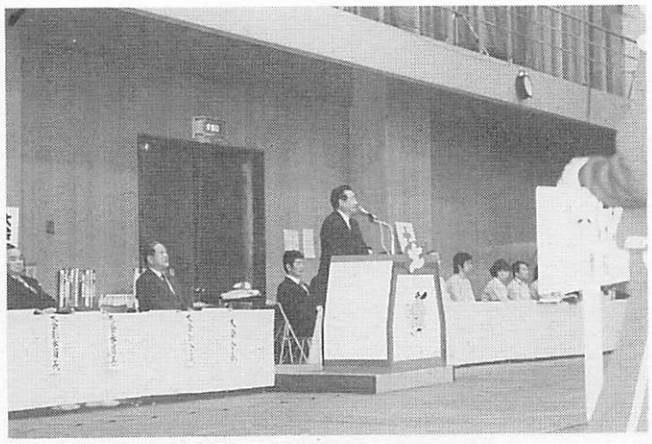
愛媛県バドミントン協会50周年おめでとうございます。

発足当時は、バドミントン人口も少なかった事でしょう。その中で大会もあり、役員の方々もご苦労されたことと思います。其れ故に底辺の拡大の為にいろいろ努力されたことでしょう。お陰様で現在は、社会人、実業団、家庭婦人、学生、ジュニアとそれぞれの分野で人口も増えました。

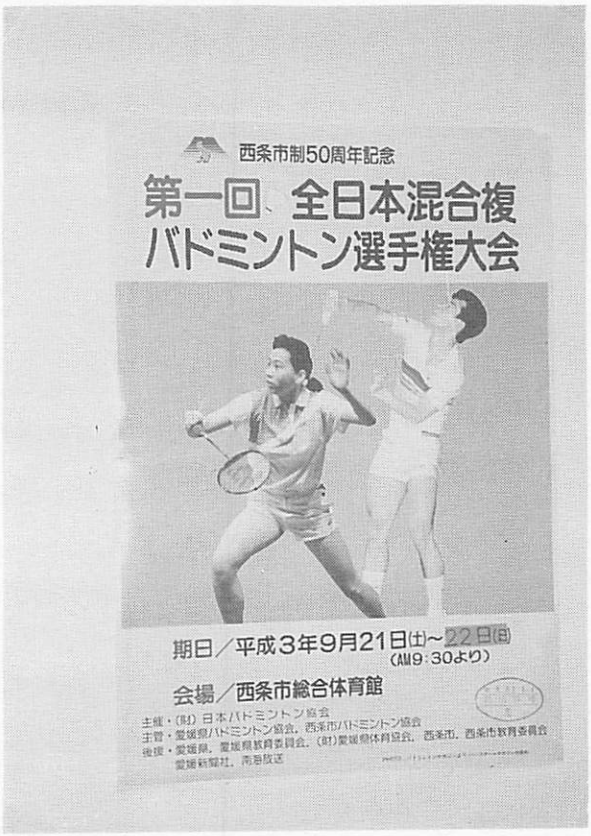
家庭婦人連盟も今はレディース連盟と名称を改めました。私たち連盟も県協会の協力をいただき、運営をしております。市・県の大会にオープン大会など大会も増え、県外の大会にも積極的に参加し活躍されている方も多くいらっしゃいます。運動不足になりがちな年代になっても目標を持って元気に続けられる事は、すばらしいと思います。

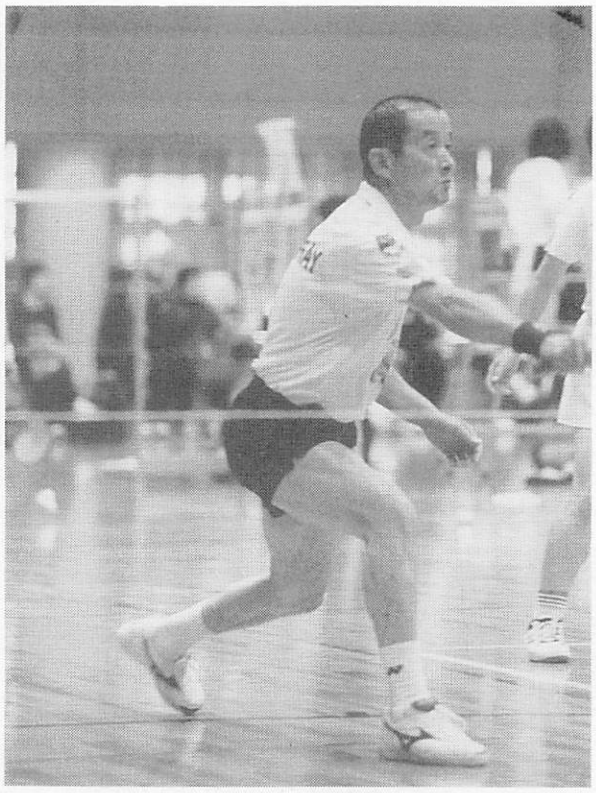
この何年かの間に、ジュニアの増加と技術の向上は、目を見張るものがあると思います。しかし、小学生で始めても部活がない学校が多く、続けたくても出来ないので、他の競技に移る者も少なくありません。残念です。中学校の先生で経験者が少ないという事でしょうか。指導者がいないのに部だけ作るというのは無理な事です。なんとかしたいですね。

いろいろと課題はあると思いますが、今後も協会の発展の為に協力していきたいと思っております。



平成元年・第2回全日本スポーツレクリエーション大会
（コスモ石油体育館）





優勝　橋田国司（パートナー 石田信子）
全日本混合複バドミントン選手権大会

浜中　誠
全日本実業団バドミントン選手権大会
40歳男子単　優勝5回
全日本社会人バドミントン選手権大会
40歳男子複　優勝
50歳男子複　優勝
全日本シニアバドミントン選手権大会
60歳男子複優勝